

HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure

HP Operations Manager for Windows®、HP-UX、Linux、および Solaris 用

ソフトウェア バージョン : 2.00

ユーザー ガイド

ドキュメント リリース日 : 2011 年 5 月 (英語版)

ソフトウェア リリース日 : 2011 年 5 月 (英語版)



ご注意

保証

HP の製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、**HP** からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、**FAR 12.211** および **12.212** の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2008-2011 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Microsoft® および Windows® は、米国における Microsoft Corporation の登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

ドキュメントの更新情報

このガイドの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかの確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の 営業担当にお問い合わせください。

サポート

HP ソフトウェア サポート オンライン Web サイトを参照してください。

www.hp.com/go/hpsoftwaresupport

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア サポート オンラインでは、セルフソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア サポート Web サイトのサポート範囲は、次のとおりです。

- 関心のある技術情報の検索
- サポート ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング
- ソフトウェア パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェア カスタマとの意見交換
- ソフトウェア トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ユーザー ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセス レベルに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

目次

第 1 章 このドキュメントで使用する命名規則	7
第 2 章 はじめに	9
仮想化テクノロジ用の VI SPI 監視ソリューション	10
HPVM の監視	10
IBM AIX LPAR および WPAR の監視	11
Microsoft Hyper-V サーバーの監視	12
Oracle Solaris ゾーンの監視	13
VMware ESX/ESXi サーバーの監視	14
第 3 章 Virtualization Infrastructure SPI のコンポーネント	15
HPOM for Windows のマップ ビュー	15
HPOM for UNIX のマップ ビュー	16
ツール	17
ポリシー	17
グラフ	18
レポート	19
第 4 章 Virtualization Infrastructure SPI のポリシーとツール	21
Virtualization Infrastructure SPI のポリシー	21
自動検出ポリシー	22
可用性ポリシー	22
容量ポリシー	33
イベント監視ポリシー	39
ハードウェア監視ポリシー	40
ログ監視ポリシー	46
パフォーマンス ポリシー	52
HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布	104
HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布	105
Virtualization Infrastructure SPI のツール	106
第 5 章 Virtualization Infrastructure SPI のレポートとグラフ	109
Virtualization Infrastructure SPI のレポート	109
Virtualization Infrastructure SPI のグラフ	113
第 6 章 トラブルシューティング	117
A Virtualization Infrastructure SPI のメトリック	121
VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	122
VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	123
VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	123

VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	124
VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	124
VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	125
VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	126
VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	126
VI-IBMHMCDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック	127

第1章 このドキュメントで使用する命名規則

このドキュメントでは、以下の命名規則を使用します。

命名規則	説明
HPOM for UNIX	HPOM for UNIX は、HPOM on HP-UX、HPOM on Linux、および HPOM on Solaris の総称としてドキュメントで使用されます。 特定のオペレーティング システムを明確に区別する必要がある場合は、以下のように表示します。 <ul style="list-style-type: none">• HPOM on HP-UX• HPOM on Linux• HPOM on Solaris
Infrastructure SPIs	HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure を示します。このソフトウェア スイートには、次の 3 つの Smart Plug-in が含まれます。 <ul style="list-style-type: none">• HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure• HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure• HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure
SI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Systems Infrastructure
VI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure
CI SPI	HP Operations Smart Plug-in for Cluster Infrastructure

第2章 はじめに

HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure (VI SPI) を使用すると、HP Operations Manager (HPOM) コンソールから、さまざまなテクノロジーを使った仮想インフラストラクチャを管理および監視できます。VI SPI は、独自の監視機能を HPOM に追加しています。HPOM の詳細は、『HP Operations Manager for UNIX コンセプト ガイド』を参照してください。

VI SPI は、ホスト マシン、仮想マシン、リソース プールのパフォーマンス、容量、使用率、可用性、リソース消費量を監視します。

VI SPI でサポートされているベンダーのバージョンの詳細は、『HP Operations Smart Plug-in for Virtualization Infrastructure リリース ノート』を参照してください。

VI SPI は、HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure スイート (Infrastructure SPIs) に含まれています。このスイートには他にも、Systems Infrastructure SPI (SI SPI)、Cluster Infrastructure SPI (CI SPI)、レポート パック、グラフ パックなどが含まれています。Infrastructure SPIs メディアに収録されている他のコンポーネントをインストールする場合は、SI SPI をインストールする必要があります。



HP Reporter が 64 ビット版をサポートしていないため、レポート パックは HPOM for Windows 9.00 では使用できません。

VI SPI は、HP Performance Manager、HP Performance Agent、HP Reporter など、他の HPOM 製品とも統合されています。

仮想化テクノロジー用の VI SPI 監視ソリューション

Virtualization Infrastructure SPI 2.00 は、次のベンダーの 5 つの仮想化テクノロジーをサポートしています。

- HP Integrity Virtual Machine (HPVM)
- IBM LPAR および WPAR
- Microsoft Hyper-V
- Oracle Solaris ゾーン
- VMware ESX/ESXi サーバー

これらのテクノロジーを監視するには、次のソフトウェアがノード（ホスト/監視システム）にインストールされていることを確認してください。

- HP Operations Agent 8.60 と HP Performance Agent 5.00 または HP Operations Agent 11.00
- (オプション) グラフを表示する場合、HP Performance Manager 8.20 (以上)
- (オプション) レポートを表示する場合、HP Reporter 3.80 (以上)

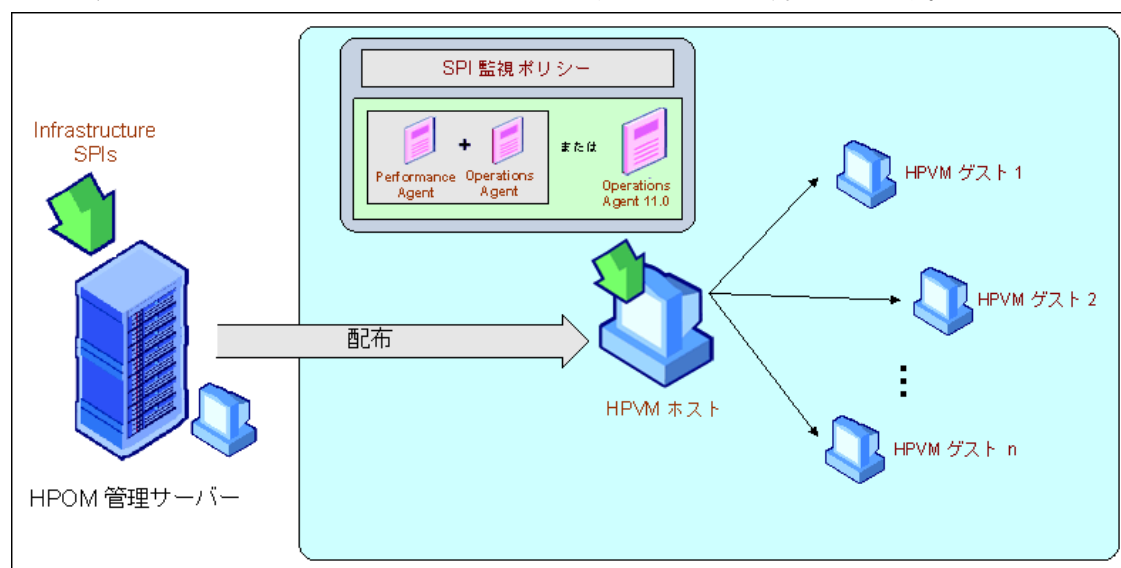
HPVM の監視

HPVM 環境用の VI SPI は、HPVM ホストに配布する必要があります。VI SPI を使用すると、HPVM ホストとそのホストで実行されているゲスト マシンの可用性とパフォーマンスを監視できます。

VI SPI は、HPVM 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

HP Performance Agent と HP Operations Agent (または HP Operations Agent 11.0)、および VI SPI は HPVM ホストに配布されます。

次の図に、HPVM ホストに VI SPI が配布されている一般的な HPVM 環境を示します。



IBM AIX LPAR および WPAR の監視

IBM AIX LPAR 用の VI SPI は、フレーム内の LPAR に配布されます。この LPAR は、フレーム内の他の LPAR を監視するため、監視 LPAR と呼ぶことができます。各フレームには、少なくとも 1 つの監視 LPAR が含まれている必要があります。HMC 環境のすべての LPAR とフレームの可用性を監視する場合は、設定 LPAR として監視 LPAR を 1 つ作成します。

VI SPI は、IBM フレーム、LPAR、および WPAR 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートを送信します。

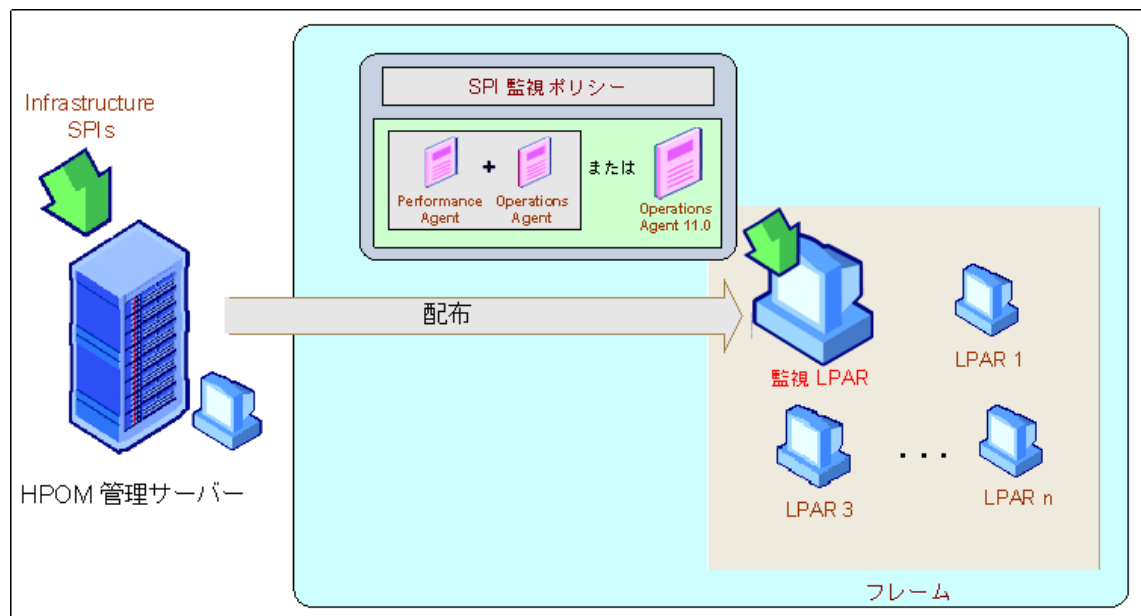
フレームと接続されている HMC を監視するように、VI SPI を設定することもできます。

シナリオ 1: LPAR、フレーム、および WPAR の監視

監視 LPAR に配布された VI SPI は、監視 LPAR の可用性とパフォーマンスを監視します。この VI SPI を使用して、フレーム、フレーム内の他の LPAR、および監視 LPAR で実行されている WPAR の可用性とパフォーマンスも監視できます (VI SPI は監視 LPAR で作成された WPAR のみを監視します)。

HP Performance Agent と HP Operations Agent (または HP Operations Agent 11.0)、および VI SPI は監視 LPAR に配布されます。

次の図に、フレーム内の LPAR に監視ソリューションが配布されている一般的な AIX LPAR 環境を示します。



シナリオ 2: LPAR、フレーム、WPAR、および HMC の監視

VI SPI を設定して、フレームに接続されているハードウェア管理コンソール (HMC) から (LPAR とフレーム) の関連状態および設定メトリックを収集するようにできます。HMC から収集された情報は、レポートとグラフに使用されます。また状態の監視にも使用されます。

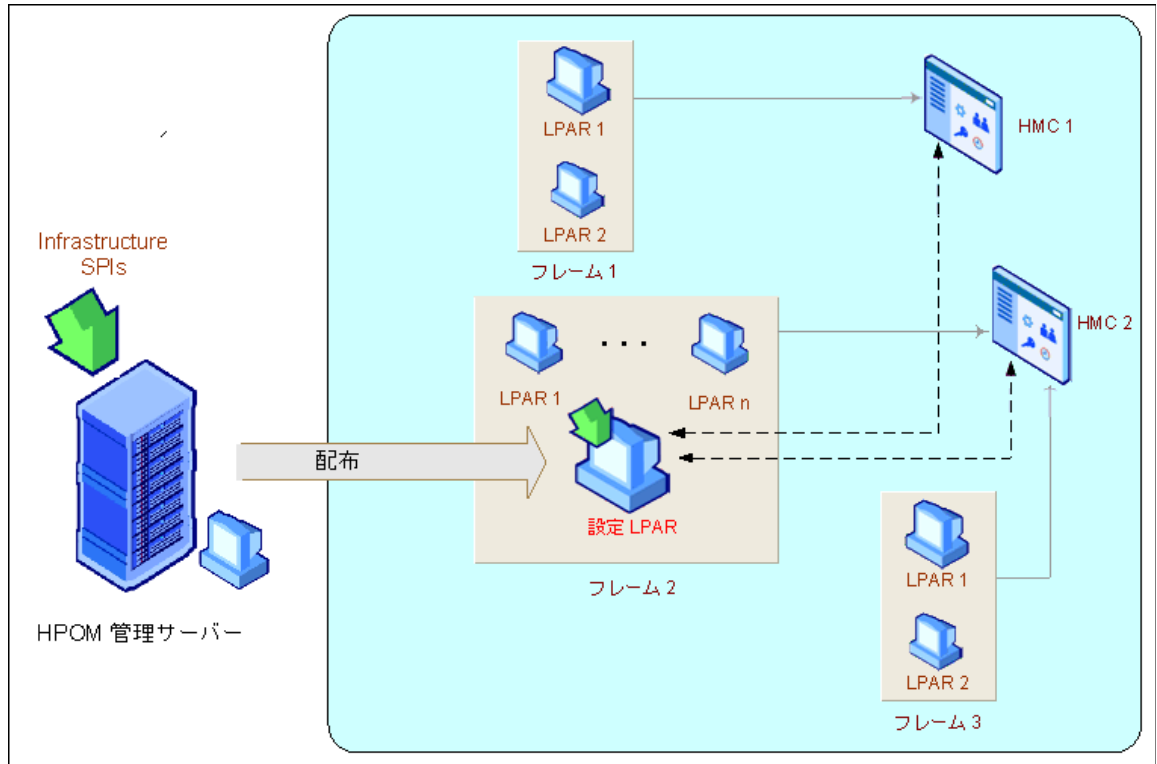
VI SPI は、HMC が接続されている LPAR に配布されます。この LPAR は設定 LPAR と呼ぶことができます。設定 LPAR が監視する対象は次のとおりです。

- 設定 LPAR 内で動作する WPAR。
- HMC に接続されているすべてのフレームと LPAR の状態。
- HMC に接続されているすべてのフレームと LPAR の構成情報。

VI SPI の配布後、HMC に接続されている監視/設定 LPAR 上で `getSSHAuthentication.pl` スクリプトを実行します。このスクリプトは、LPAR の `/var/opt/OV/bin/instrumentation` ディレクトリにあります。

`getSSHAuthentication.pl` スクリプトを使用すると、パスワードを使用しない認証によって HMC の設定情報にアクセスできます。

次の図に、さまざまなフレームが HMC によって管理される一般的な設定を示します。これらの HMC もまた、設定 LPAR に接続されます。



Microsoft Hyper-V サーバーの監視

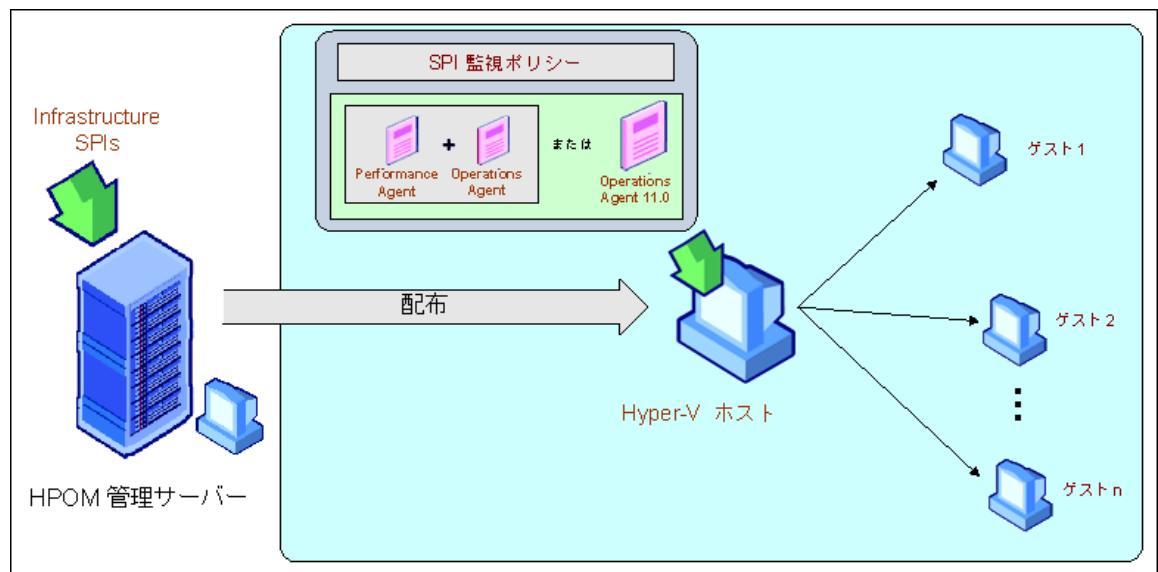
Hyper-V 環境用の VI SPI は、Hyper-V ホストに配布する必要があります。この VI SPI を使用すると、次の操作を実行できます。

- Hyper-V ホスト、およびこのホストで実行されているゲストシステムの可用性とパフォーマンスの監視。
- イベントの監視。

VI SPI は、Hyper-V 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

HP Performance Agent と HP Operations Agent (または HP Operations Agent 11.0)、および VI SPI は Hyper-V ホストに配布されます。

次の図に、Hyper-V ホストに VI SPI が配布されている一般的な Hyper-V 環境を示します。



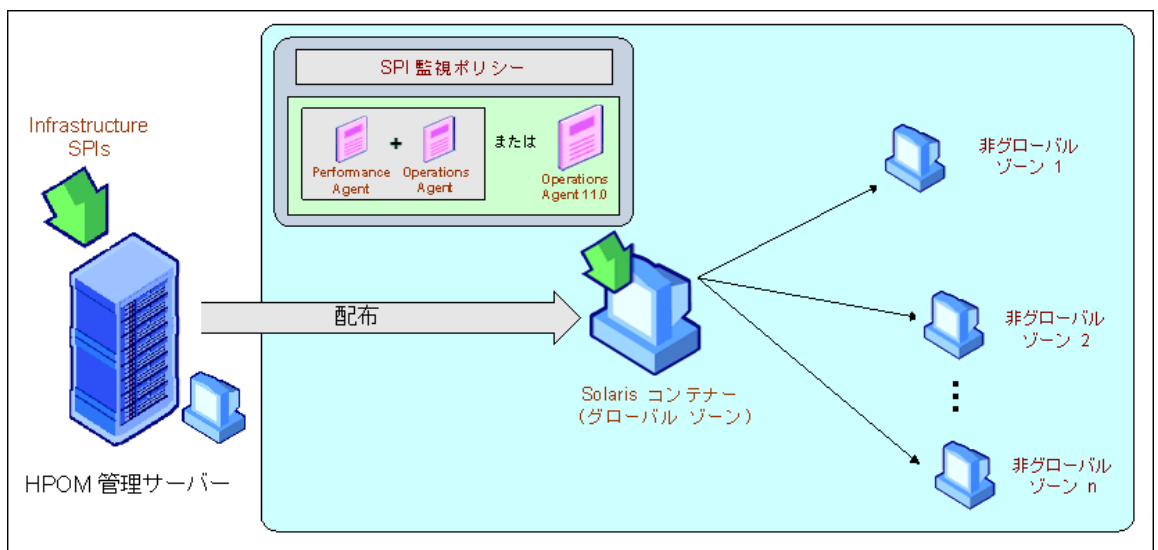
Oracle Solaris ゾーンの監視

Solaris ゾーン環境用の VI SPI は、Solaris グローバル ゾーンに配布する必要があります。VI SPI を使用すると、グローバル ゾーンとそのゾーンで実行されているローカル ゾーンの可用性とパフォーマンスを監視できます。

VI SPI は、Oracle Solaris ゾーン固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

HP Performance Agent と HP Operations Agent (または HP Operations Agent 11.0)、および VI SPI は Solaris コンテナにも配布されます。

次の図に、グローバル ゾーンに VI SPI が配布されている一般的な Solaris ゾーン環境を示します。



VMware ESX/ESXi サーバーの監視

VMware 環境用の VI SPI は、vMA マシンに配布する必要があります。この VI SPI を使用すると、次の操作を実行できます。

- 複数の VMware ESX/ESXi ホスト、ゲスト、およびこのホストに関連付けられているリソース プールの可用性と容量情報の収集。
- VMware ESX/ESXi ホストとゲストのパフォーマンスの監視。
- イベントの監視。

HP Performance Agent と HP Operations Agent (または HP Operations Agent 11.0)、および VI SPI は、VMware ESX/ESXi ホストでホストされている仮想マシンである vMA に配布されます。これは、ESX/ESXi サービス コンソールで実行されるほとんどのタスクの実行に使用されます。

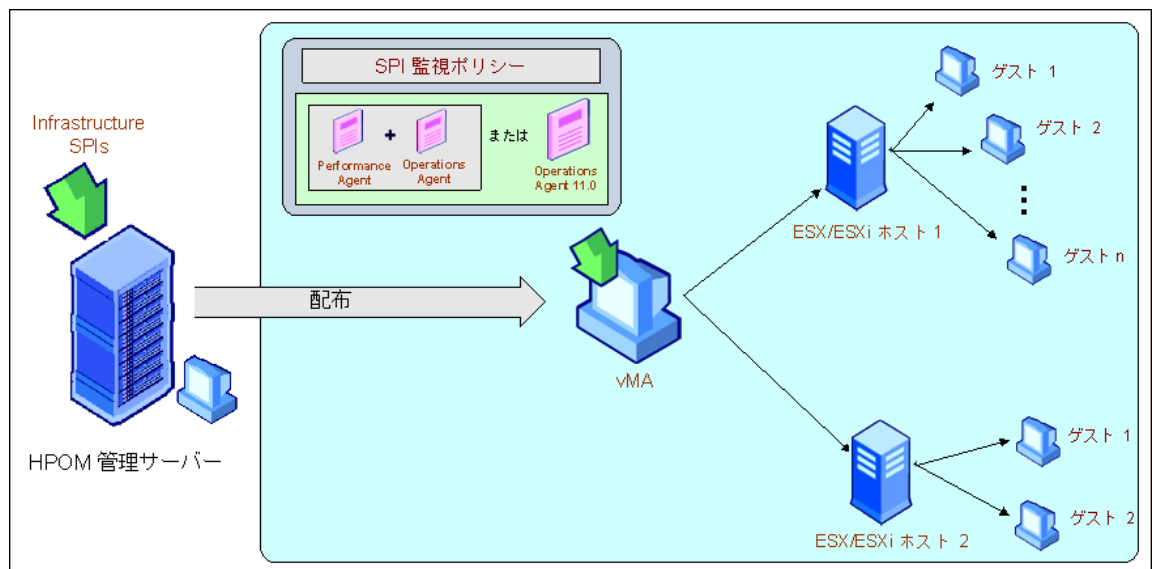
vMA は、VMware ESX/ESXi ホストおよびゲストを管理するスクリプトまたはエージェントの実行に使用される標準 VM です。vMA を 1 つインストールすることにより、複数の VMware ESX/ESXi ホスト、関連付けられたゲスト、リソース プールのイベントとパフォーマンス データを管理できます。

VI SPI は、VMware 固有のポリシーに設定されているしきい値に基づいて、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。



VI SPI では、VMware ESX/ESXi ホストおよびゲストを監視するために、VMware SDK は必要ありません。VMware SDK パッケージは、vMA を作成すると vMA 上で使用可能になります。したがって、vMA のインストールでエラーが発生した場合を除き、個別にインストールする必要はありません。

次の図に、vMA に VI SPI が配布されている一般的な VMware 環境を示します。



VMware ESX/ESXi サーバー上の VI SPI 監視ソリューションの詳細は、ホワイト ペーパーの『Monitoring a VMware ESX/ESXi Environment』を参照してください。このホワイト ペーパーは、<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals> からダウンロードできます。

第3章 Virtualization Infrastructure SPI の コンポーネント

Virtualization Infrastructure SPI は、ホスト サーバー、仮想マシン、リソース プールの動作、可用性、パフォーマンスを監視するための設定済みポリシーとツールを提供します。これらのポリシーとツールを使用するほか、検出を行うことで、仮想 IT インフラストラクチャの重要な要素をすばやくコントロールできます。

HPOM for Windows のマップ ビュー

VI SPI のインストール後、「AutoDeployConfig」をオンにして HPOM サーバーにノードを追加すると、そのノードに **Systems Infrastructure SPI (SI SPI) service discovery** ポリシーが自動的に配布されます。



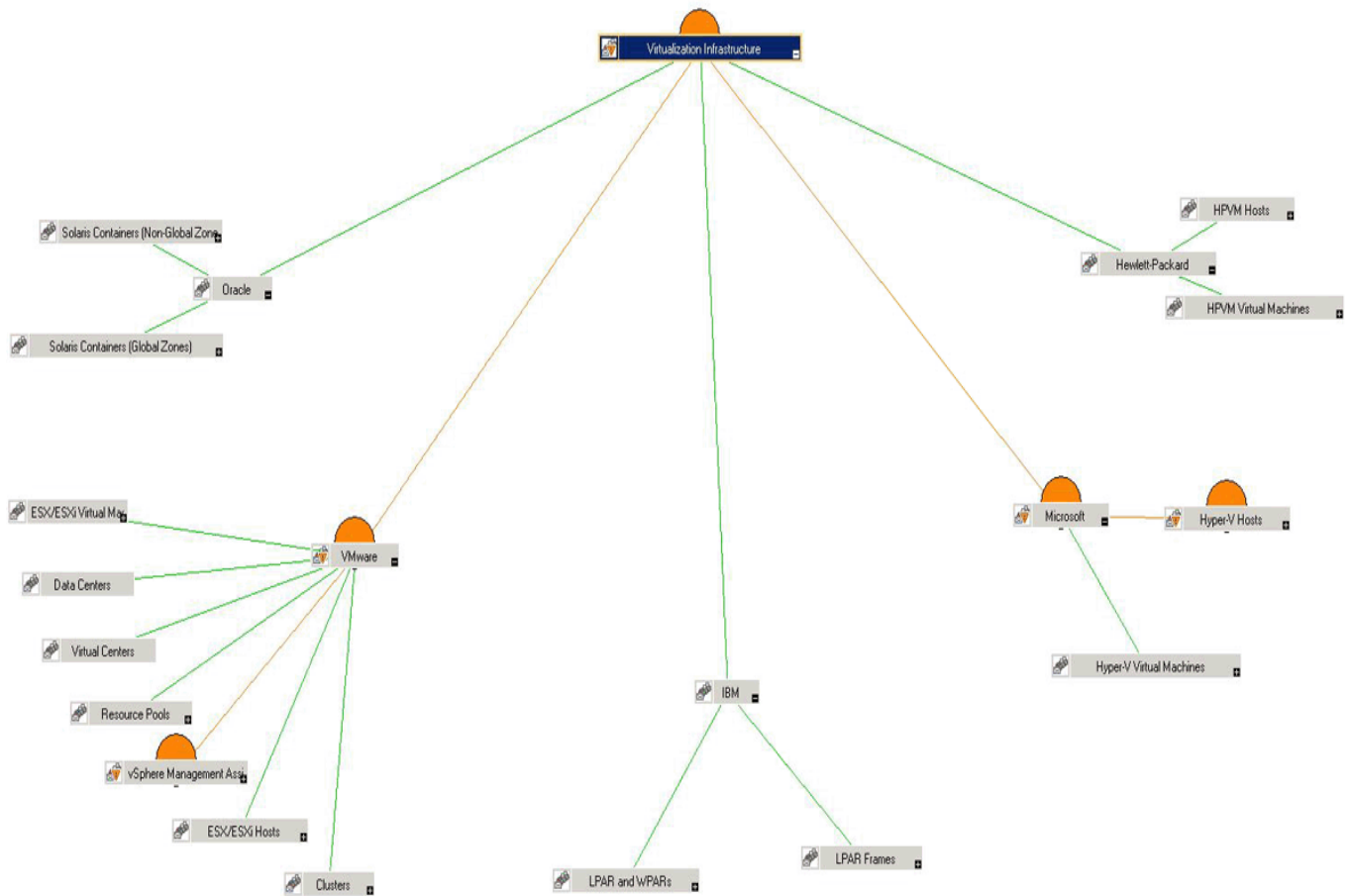
VI SPI をインストールする前にノードを追加した場合、**SI SPI Service Discovery** を手動でノードに配布する必要があります。

Discovery ポリシーによってノードが HPVM ホスト、Solaris コンテナ、AIX フレーム、VMware vMA、または Hyper-V ホストとして特定されると、**VI SPI Discovery** ポリシーの自動配布がトリガされます。**VI SPI Discovery** により、検出された情報が HPOM サービス領域に追加されます。この方法を使用して、管理ノードの **VI SPI** マップ ビューが入力されます。

マップ ビューには、インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。マップ ビューを表示するには、コンソール ツリーで **[サービス]** を選択し、**[Virtualization Infrastructure]** をクリックします。マップ ビューには、インフラストラクチャ環境の仮想化インフラストラクチャまたはノード階層の構造的なビューがグラフィカルに表示されます。

サービス ビューに、検出された要素がグラフィカルに表示されることで、仮想化されたシステムの問題を迅速に診断できます。

- メッセージ ブラウザに表示された問題の根本原因を表示するには、**[表示]** → **[障害原因]** をクリックします。
- 問題の影響を受けているサービスとシステム コンポーネントを表示するには、**[表示]** → **[影響範囲]** をクリックします。



マップのアイコンや線は色分けされており、マップの項目の重要度レベルやステータス伝達が表示されます。マップビューでは、ノードまたはサービス階層の問題が発生しているレベルにドリルダウンできます。

HPOM for UNIX のマップビュー

マップビューでは、仮想インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。管理サーバーで以下のコマンドを実行すると、**HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris)** の操作 UI でオペレータがサービスビューを表示できるようになります。

opcservice -assign <オペレータ名> AutoDiscovery

オペレータ名には、サービスを割り当てるオペレータを指定します (例: **opc_adm**、**opc_op**)。

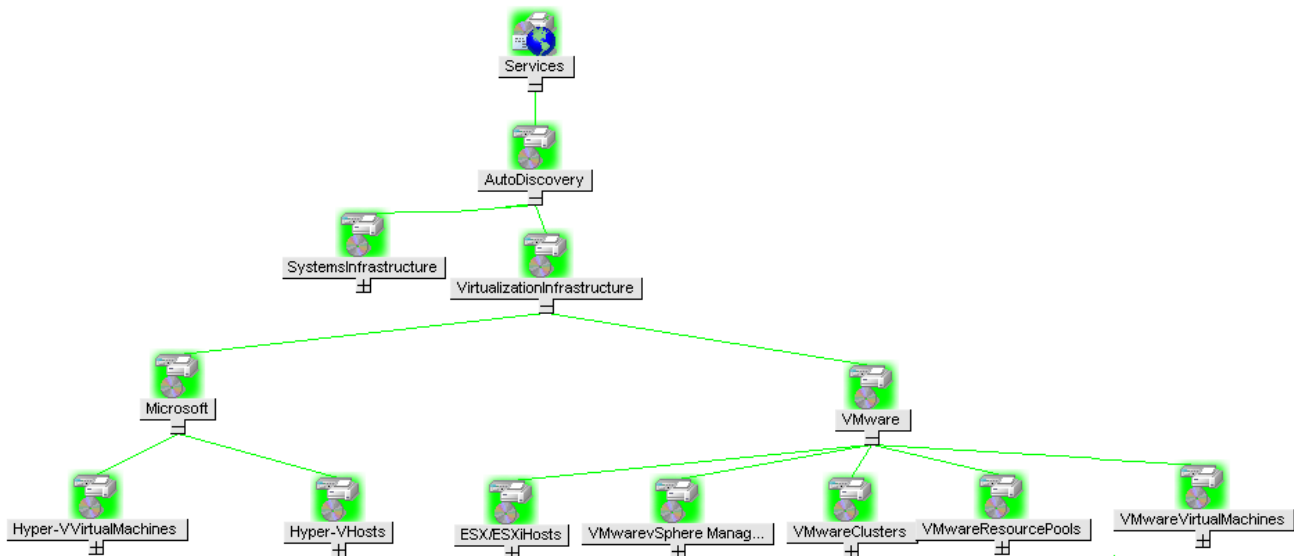
Service Discovery ポリシーによってポリシーがノードに自動的に配布されることはありません。手動でポリシーを配布できます。

マップビューでは、仮想インフラストラクチャ環境のリアルタイムな状態が表示されます。

マップビューを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 HPOM の操作 UI を起動します。
- 2 ユーザー名とパスワードを使用してログオンします。

- 3 [サービス] → [Virtualization Infrastructure] → [グラフの表示] を選択し、マップ ビューを表示します。



マップ ビューには、インフラストラクチャ環境の **Virtualization Infrastructure** 階層の構造的なビューがグラフィカルに表示されます。

ツール

Virtualization Infrastructure SPI のツールにアクセスするには、[ツール] → [Virtualization Infrastructure] を選択します。Virtualization Infrastructure SPI のツールの詳細は、「[Virtualization Infrastructure SPI のツール](#)」を参照してください。

ポリシー

HPOM for Windows では、インストール時に複数のデフォルト ポリシーがサポートされている管理ノードに自動的に配布されます。これらをそのまま使用して、仮想化されたインフラストラクチャに関するデータや環境からのメッセージの受信を開始できます。サービス検出時にポリシーを自動配布する設定をオフにすることができます。また、設定済みのポリシーを変更して新しい名前で保存し、目的に応じたカスタム ポリシーを作成することもできます。管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「[HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布](#)」を参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) では、Discovery ポリシーによってポリシーがノードに自動的に配布されることはありません。手動でポリシーを配布できます。管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「[HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布](#)」(105 ページ) を参照してください。

ポリシー タイプは以下のとおりです。

- **Service/Process Monitoring** ポリシーは、システム サービスおよびプロセスを監視する手段を提供します。
- **Logfile Entry** ポリシーは、システム ノードおよびリソース グループ アプリケーションにより生成されたステータス メッセージおよびエラー メッセージをキャプチャします。
- **Measurement Threshold** ポリシーは、収集されたメトリック値を解釈し、警告メッセージをメッセージ ブラウザに表示できるように、各メトリックの条件を定義します。各 **Measurement Threshold** ポリシーは、実際のメトリック値と指定したしきい値/自動しきい値を比較して、実際の値がしきい値と一致するかそれを超える場合、問題を解決するためのメッセージや指示文が表示されます。
- **Scheduled Task** ポリシーは、メトリック値を収集する時間と収集対象を決定し、収集間隔を定義します。収集間隔は、5 分、15 分、1 時間、1 日に設定できます。収集間隔は、特定のグループに対するデータの収集頻度を示します。**Scheduled Task** ポリシーには 2 つの機能があります。ノードの収集間隔ごとにコレクタ/アナライザを実行する機能と、ポリシーの **[コマンド]** テキスト ボックス内に表示されているすべてのメトリックのデータを収集する機能です。
- **Service Discovery** ポリシーは、個々のシステム ノードおよびリソース グループ インスタンスを検出し、**Virtualization Infrastructure SPI** で検出されたすべてのインスタンスのマップ ビューを構築します。
- **Config** ポリシーは、ユーザー定義のメトリックを入力する手段を提供します。

Virtualization Infrastructure SPI により、システム管理者が仮想インフラストラクチャを効率的に監視するため設定済みポリシーが提供されます。**VI SPI** のポリシーの名前は、わかりやすく、簡単に変更できるように、**VI** で始まっています。

これらのポリシーは、特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。**Virtualization Infrastructure SPI** のポリシーの詳細は、「[Virtualization Infrastructure SPI のポリシー](#)」を参照してください。

グラフ

VI SPI では、監視対象の要素の正常域の動作に矛盾が生じた場合に原因を表示して追跡できます。**HPOM** は、仮想システム間のパフォーマンスの表示、評価、比較のための **Web** ベースのツールである **HP Performance Manager** と統合されています。**HP Performance Manager** では、以下の表示が可能です。

- グラフ (折れ線グラフ、棒グラフ、面グラフなど)
- データ表 (プロセス詳細など)
- ベースライン グラフ
- **Java** 形式の動的グラフによって、個々のメトリックの表示をオフにしたり、グラフ上の点の値を表示したりすることができます。

データをグラフィカルに表示することで、レポートされた重大または危険域のエラー メッセージをすばやく簡単に分析できます。Virtualization Infrastructure SPI のグラフの詳細は、[「Virtualization Infrastructure SPI のグラフ」](#)を参照してください。

レポート

HP Reporter をインストールして VI SPI と統合することにより、メトリック データに基づいて Web ベースのレポートを生成できます。

HP Reporter を Windows 向けの HPOM 管理サーバーにインストールした場合、コンソールからレポートを表示できます。レポートを表示するには、コンソール ツリーで **[Reports]** を展開し、個別のレポートをダブルクリックします。

HP Reporter を HPOM 管理サーバー (Windows、UNIX、Linux、または Solaris オペレーティング システム向け) に接続されている別のシステムにインストールした場合、HP Reporter システムでレポートを表示できます。HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『HP Reporter インストールおよび特別構成ガイド』を参照してください。

Virtualization Infrastructure SPI のレポートの詳細は、[「Virtualization Infrastructure SPI のレポート」](#)を参照してください。

第4章 Virtualization Infrastructure SPI のポリシーとツール

Virtualization Infrastructure SPI (VI SPI) には、インフラストラクチャの管理に役立つさまざまなポリシーとツールがあります。ポリシーを使用して仮想化された環境のシステムを監視し、それらのシステムについて収集されたデータをツールで表示できます。

Virtualization Infrastructure SPI のポリシー

ポリシーは、監視を自動化するための 1 つまたは複数のルールです。VI SPI のポリシーを使用して、Windows および UNIX の各環境を監視できます。ほとんどのポリシーはすべての環境に共通ですが、特定の環境でのみ使用できたり、該当するプラットフォームでのみ配布する必要があるポリシーもあります。サポートされていないプラットフォームにポリシーを配布すると、予期しない動作が発生したり、ポリシーにエラーが発生したりすることがあります。

[Infrastructure Management] フォルダには、言語で分類されたサブグループがあります。たとえば、英語のポリシーのサブグループは **[en]**、日本語のポリシーのサブグループは **[ja]**、簡体中国語のポリシーのグループは **[zh]** です。

コンソール ツリーでは、VI SPI ポリシーは以下の場所にあります。

[ポリシー管理] → [ポリシー グループ] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure]

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「[HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布](#)」を参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、または Solaris) では、ポリシー グループはコンソール/管理者用 UI の以下の場所にあります。

[登録ポリシー] → [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure]

管理サーバーからのポリシーの配布の詳細は、「[HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布](#)」を参照してください。

VI SPI ポリシーをインストールするための前提条件

VI SPI ポリシーを配布する前に、次のことを確認してください。

- HP Performance Agent または HP Operation Agent 11.00 がインストール済みで実行されていること。
- vMA および HyperV ホスト上の parm ファイルに **logicalsystems** というテキストが追加されていること。以下の手順を実行します。
 - a UNIX ホストの場合、/var/opt/perf ディレクトリに移動し、parm ファイルを開きます。
 - b 次の行の末尾に **logicalsystems** というテキストを追加します。

```
application process device=disk,cpu,filesystem transaction logicalsystems
```

WPAR も監視する場合、**logicalsystems=all** を追加します。

Windows ホストの場合、<ドライブ>:\ProgramData\HP\HP BTO Software に移動し、parm.mwc ファイルを開きます。logicalsystems が追加されていない場合は、追加します。

- c PA または HP Operations Agent 11.00 を再起動します。以下のコマンドを実行します。

ovpa restart

- (オプション) /var/opt/perf ディレクトリの reptall ファイル内で、各メトリックのコメントが解除されていること。この作業が必要になるのは、extract -x コマンドでメトリック値を取得する場合のみです。
- **[Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds]** 下で利用できるエージェント設定が、仮想化ノード (ハイパーバイザーと管理対象プロキシ) に配布されていること。
- メッセージが仮想化ノード (ハイパーバイザーと管理対象プロキシ) に配布されていること。
- HPOM サーバーに HP Performance Manager がインストールされていること (グラフを表示するため)。

自動検出ポリシー

Virtualization Infrastructure SPI では、ホスト サーバー ノードで使用可能な仮想マシンとリソース プールが検出され、サービス階層が自動的に設定されます。自動配布を有効にした状態で HPOM サーバーにノードを追加すると、そのノードに Systems Infrastructure SPI Service Discovery ポリシーが自動的に配布されます。Systems Infrastructure SPI Discovery ポリシーによってシステムが仮想マシンまたは vMA をホストするノードとして特定されると、VI-Discovery ポリシーの自動配布が自動的にトリガされます。Virtualization Infrastructure SPI の検出により、検出された情報が HPOM サービス領域に追加されます。



Service Discovery ポリシーが自動配布されるのは、HPOM for Windows の場合のみです。HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) の場合、このポリシーを手動で割り当て、ノードに配布する必要があります。

サービスの手動検出

コンソール ツリーでは、自動検出ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Auto Discovery]

Discovery ポリシーを手動で配布するには、以下の手順を実行します。

- 1 **VI-Discovery_ja_JP** ポリシーを選択します。
- 2 右クリックして、**[すべてのタスク] → [配布先ノード ...]** の順に選択します。
- 3 ポリシーを配布するノードを選択します。
- 4 **[OK]** をクリックします。



VI-Discovery_ja_JP ポリシーによって設定済みのポリシーが自動的に配布されることはありません。ポリシーは手動で配布する必要があります。

可用性ポリシー

可用性の監視を行い、リソースの可用性を確保します。可用性ポリシーは、仮想化されたインフラストラクチャの現在の負荷を計算してしきい値レベルと比較し、リソースの可用性が十分でない場合は HPOM コンソールに警告メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、可用性ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability]

VI-PerfAgentProcessMonitor_ja_JP

VI-PerfAgentProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、Measurement Threshold ポリシーであり、ノードで実行されている Performance Agent のプロセスを監視します。このポリシーは、最初に CODA (HP Operations Agent の場合) または SCOPE (HP Performance Agent の場合) がノード上で有効になっているかをチェックし、次にそのステータスをチェックします。

Scope と CODA のステータスの監視に加えて、VI-PerfAgentProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、VISERVER プロセスのステータス (VMware の場合) および LSDAEMON プロセスのステータス (AIX の場合) も監視します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [<プラットフォーム> - QuickStart]

いずれかの Performance Agent プロセスが実行を停止した場合、このポリシーは重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。このポリシーには、プロセスを内部的に開始する自動アクションが関連付けられています。プロセスが開始し、サービスに対する start コマンド実行が成功すると、アラート メッセージがメッセージの確認ウィンドウに移動します。

すべてのサービスが開始すると、アラート メッセージは、次のポリシー実行で正常域のアラート メッセージとして確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

ポーリング間隔は 30 秒未満に設定しないでください。ポーリングが機能しなくなります。

HPVM ゲスト用の State Monitor ポリシー

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP ポリシーは、HPVM ゲストを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [HPVM]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [HPVM - QuickStart]

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート		正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none">• Hung• Crash	<ul style="list-style-type: none">• Unknown• Invalid• Other	<ul style="list-style-type: none">• Down• Boot• Shutdown	<ul style="list-style-type: none">• Up

VI-HPVMStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホスト マシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_STATE • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	HPVM
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	このパラメータは、デバッグ メッセージを有効または無効にするために使用されます。Debug の値は、デフォルトで 0 に設定されています。デバッグを有効にするために、ゼロ以外の値を設定できます。この場合、デバッグ メッセージの重要度が「正常域」のアラート メッセージとして表示されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

IBM フレームと LPAR 用の State Monitor ポリシー

VI-IBMFrameAndLPARStateMonitor_ja_JP

VI-IBMFrameAndLPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM フレームとこれらのフレーム上の LPAR を監視します。このポリシーは、監視しているフレームと LPAR の状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [IBM LPAR]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - Advanced]

このポリシーは、フレームと LPAR に関する次の情報を収集し、CODA 内の 2 つのクラス (FRAME と LPAR) の下に記録します。

- FRAME クラス:
 - HMC 名
 - フレーム名
 - フレームの状態
- LPAR クラス:
 - HMC 名
 - フレーム名

- LPAR ID
- LPAR 名
- LPAR の状態

このポリシーは、次のフレーム状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Error • Error - Dump in Progress • Error - Terminated 	<ul style="list-style-type: none"> • Incomplete • Failed Authentication • Pending Authentication - Password Updates Required • Recovery • No Connection • On Demand Recovery 	<ul style="list-style-type: none"> • Power off 	<ul style="list-style-type: none"> • Initializing 	<ul style="list-style-type: none"> • Operating

VI-IBMFrameAndLPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の LPAR 状態に関するアラートを発行します。:

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Not Available 	<ul style="list-style-type: none"> • Error 	<ul style="list-style-type: none"> • Not Activated 	<ul style="list-style-type: none"> • Starting • Migrating - Running • Shutting Down • Hardware Discovery • Migrating - Not Activated 	<ul style="list-style-type: none"> • Running

このポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホスト マシンの状態を報告しません。

サポートされているプラットフォーム	IBM フレームと LPAR
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。

Debug	このパラメータは、デバッグ メッセージを有効または無効にするために使用されます。 Debug の値は、デフォルトで 0 に設定されています。デバッグを有効にするために、ゼロ以外の値を設定できます。この場合、デバッグ メッセージの重要度が「正常域」のアラート メッセージとして表示されます。
-------	--

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5** 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

IBM WPAR 用の State Monitor ポリシー

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM WPAR を監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している WPAR の状態に基づいて、重要度が「重要警戒域」または「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - QuickStart]**

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

重要警戒域のアラート	注意域のアラート			正常域のアラート
危険域状態	注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Broken • Error 	<ul style="list-style-type: none"> • Frozen 	<ul style="list-style-type: none"> • Paused 	<ul style="list-style-type: none"> • Transitional • Defined • Loaded 	<ul style="list-style-type: none"> • Active

VI-IBMWPARStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホスト マシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_STATE • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	IBM WPAR
スクリプト パラメータ	説明
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「 FALSE 」に設定されています。「 TRUE 」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。 Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。

Debug	このパラメータは、デバッグ メッセージを有効または無効にするために使用されます。 Debug の値は、デフォルトで 0 に設定されています。デバッグを有効にするために、ゼロ以外の値を設定できます。この場合、デバッグ メッセージの重要度が「正常域」のアラート メッセージとして表示されます。
-------	--

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5 分**です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

Microsoft Hyper-V ゲスト用の State Monitor ポリシー

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP ポリシーは、Microsoft Hyper-V ゲスト マシンを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「注意域」のアラートメッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

注意域のアラート			正常域のアラート
注意域状態	ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Unknown • Deleted 	<ul style="list-style-type: none"> • Suspended • Paused • Disabled 	<ul style="list-style-type: none"> • Starting • Snapshotting • Migrating • Saving • Stopping • Pausing • Resuming 	<ul style="list-style-type: none"> • Enabled

VI-MSHyperVStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが **30 分**より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホスト マシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_STATE • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートされているプラットフォーム	Microsoft Hyper-V
スクリプト パラメータ	説明

AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	このパラメータは、デバッグ メッセージを有効または無効にするために使用されます。Debug の値は、デフォルトで 0 に設定されています。デバッグを有効にするために、ゼロ以外の値を設定できます。この場合、デバッグ メッセージの重要度が「正常域」のアラート メッセージとして表示されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の State Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視しているゾーンの状態に基づいて、重要度が「注意域」のアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

注意域のアラート		正常域のアラート
ダウン状態	遷移状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> Down 	<ul style="list-style-type: none"> Configured Incomplete Installed Ready Shutting Mounted 	<ul style="list-style-type: none"> Running

VI-OracleSolarisStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホスト マシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> BYLS_LS_STATE BYLS_LS_NAME BYLS_DISPLAY_NAME GBL_LS_TYPE
-----------	---

サポートされているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
Debug	このパラメータは、デバッグ メッセージを有効または無効にするために使用されます。 Debug の値は、デフォルトで 0 に設定されています。 デバッグを有効にするために、ゼロ以外の値を設定できます。この場合、デバッグ メッセージの重要度が「正常域」のアラート メッセージとして表示されます。
AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「 FALSE 」に設定されています。「 TRUE 」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。 Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の State Monitor ポリシー

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi サーバーのゲスト マシンを監視して、その状態を報告します。このポリシーは、監視している仮想マシンの状態に基づいて、重要度が「注意域」のアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Availability]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - QuickStart]**

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP ポリシーは、次の状態に関するアラートを発行します。

注意域のアラート	正常域のアラート
ダウン状態	正常域状態
<ul style="list-style-type: none"> • Off • Suspended 	<ul style="list-style-type: none"> • On

VI-VMWareStateMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンが 30 分より長く遷移状態にとどまった場合にのみ、遷移状態に関するアラートを発行します。このポリシーは、ホスト マシンの状態を報告しません。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_STATE • BYLS_LS_NAME • BYLS_LS_ROLE • BYLS_LS_TYPE • BYLS_DISPLAY_NAME
サポートされているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明

AlertOnPlannedOutage	AlertOnPlannedOutage の値は、デフォルトで「FALSE」に設定されています。「TRUE」に変更するか、時間を定めてアラートを受信するには、「hh:mm:ss-hh:mm:ss」形式に変更できます。Down カテゴリの下にリストされているすべての状態のアラートを受信するには、この値を TRUE または指定された時間形式に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	このパラメータは、デバッグ メッセージを有効または無効にするために使用されます。Debug の値は、デフォルトで 0 に設定されています。デバッグを有効にするために、ゼロ以外の値を設定できます。この場合、デバッグ メッセージの重要度が「正常域」のアラート メッセージとして表示されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

Microsoft Hyper-V 用の Host Service Monitor ポリシー

VI-MSHyperVHostServiceMonitor_ja_JP

このポリシーは、Microsoft Hyper-V のホスト オペレーティング システムのサービスの可用性を監視します。コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーが監視するサービスは以下のとおりです。

- **Hyper-V 仮想マシン管理**
サービス名: vmms
このサービスは、すべてのゲスト仮想マシンの状態を管理します。仮想マシンの作成、削除、変更のために使用されます。
- **Hyper-V ネットワーク管理サービス**
サービス名: nvspwmi
このサービスは、仮想スイッチなど、仮想化環境のネットワーク リソースを管理するために使用されます。
- **Hyper-V イメージ管理サービス**
サービス名: vhdsvc
このサービスは、仮想マシンの仮想メディアを管理するために使用されます。また、仮想ハード ディスクの動作に関する情報を収集するためにも使用されます。

いずれかのサービスが実行されていない場合、影響を受けたサービスを起動するオペレータ起動アクションと共にアラート メッセージが HPOM 管理サーバーに送信されます。デフォルトでは、メッセージの重要度はすべてのサービスで重要警戒域です。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

HPVM 用の Process Monitoring ポリシー

VI-HPVMDaemonsMonitor_ja_JP

VI-HPVMDaemonsMonitor_ja_JP ポリシーは、HPVM 上で実行されているプロセス/デーモンを監視し、いずれかのプロセス/デーモンが停止したときに警戒域のアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [HPVM]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [HPVM - QuickStart]

この VI-HPVMDaemonsMonitor_ja_JP ポリシーは、次の HPVM プロセス/デーモンを監視します。

デーモン名	機能
hpvmmonlogd	モニター出力をドライバー メモリから hpvm_mon_log ファイルにコピーし、必要に応じてログ ファイルを交換します。
hpvmctrld	分散しているゲストを管理します。
hpvmamrd	ゲストのメモリを自動的に再割り当てします。
hpvmapp	個々の VM に関連付けられます。
hpvmnetd	指定された仮想スイッチを管理します。
vm_fssagt	仮想マシンの適切な配分比率を計算します。

プロセス/デーモンが開始すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Process Monitoring ポリシー

VI-OracleSolarisRcapdProcessMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisRcapdProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンで実行されているリソース キャッシング デーモン (**rcapd**) を監視し、rcapd が停止したときに重要度が「警戒域」のアラート メッセージを送信します。

メモリ キャップを使用してゾーンを設定した場合、rcapd を使用すると、ゾーン別に物理メモリ消費量を規制できます。プロセスのコレクションの常駐セット サイズ (RSS) がそのキャップを超えると、rcapd はコレクションの RSS を減らします。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - Advanced]

rcapd が開始すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

VI-OracleSolarisFmdProcessMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisFmdProcessMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンで実行されている障害マネージャー デーモン (**fmd**) を監視し、**fmd** が停止したときに重要度が「警戒域」のアラート メッセージを送信します。

fmd は、実行されている Solaris システム上でシステム ソフトウェアの問題を診断し、予防的に解決 (障害のあるコンポーネントを無効にするなど) します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [Oracle Containers]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]**

fmd が開始すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じてポーリング間隔を変更できます。

IBM HMC 用の Data Collector ポリシー

VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP

VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP ポリシーは、HMC から設定情報を収集し、CODA に記録します。要件に応じてデフォルトの記録間隔を変更できます。

このポリシーは、次の設定情報を収集し、CODA の **FRAME_CONFIGURATION** と **LPAR_CONFIGURATION** という 2 つのクラスの下に記録します。

- HMC 名
- フレーム名
- フレームのシリアル番号
- フレームのモデル タイプ
- フレーム内の設定可能なメモリ
- すべての LPAR への割り当て後のフレーム内の使用可能なメモリ
- フレーム内の設定可能なプロセッシング ユニット
- すべての LPAR への割り当て後のフレーム内の使用可能なプロセッシング ユニット
- フレームの IP アドレス
- LPAR 名
- 特定の LPAR に割り当てられているメモリ
- 特定の LPAR に割り当てられているプロセッシング ユニット

このポリシーを配布する前に、**getSSHAuthentication.pl** スクリプトを実行して HMC に接続します。このスクリプトは、ノード (フレーム) の **/var/opt/OV/bin/instrumentation** ディレクトリにあります。

getSSHAuthentication.pl スクリプトを使用すると、HMC の設定情報にパスワードなしでアクセスできます。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Availability] → [IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - Advanced]**

このポリシーのデフォルトの記録間隔は 30 分です。要件に応じてポリシーの記録間隔を変更できます。

容量ポリシー

容量監視によって、使用率が低いリソースや高いリソースを特定するのにも役立ちます。容量監視ポリシーは、仮想化環境のリソースの容量使用率を監視します。

コンソール ツリーでは、容量ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Capacity]

VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareVMFSUtilizationMonitor_ja_JP

このポリシーは、Virtual Machine File System (VMFS) のディスク領域使用率を監視します。VMFS は、VMware のゲスト ディスク ファイルが格納されるデータ ストレージ ボリュームを表しています。このポリシーは、vMA システムに配布されます。このポリシーは、**VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP** (「VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー」(98 ページ) を参照) によって収集された情報に関するアラートを発行します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Capacity] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMFS_UUID • VMFS_HOSTNAME • VMFS_DEVNAME • VMFS_DEVNO • VMFS_DIRNAME • VMFS_TYPE • VMFS_MAX_SIZE • VMFS_SPACE_AVAIL • VMFS_SPACE_UTIL • VMFS_TOTAL_READ_LATENCY • VMFS_TOTAL_WRITE_LATENCY • VMFS_DEVICE_READ_LATENCY • VMFS_DEVICE_WRITE_LATENCY • VMFS_KERNEL_READ_LATENCY • VMFS_KERNEL_WRITE_LATENCY • VMFS_DISK_BUS_RESETS • VMFS_DISK_COMMANDS_ISSUED • VMFS_DISK_COMMANDS_ABORTED • VMFS_DISK_READ_THROUGHPUT • VMFS_DISK_WRITE_THROUGHPUT
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
SpaceUtilMajorThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
SpaceUtilMinorThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
SpaceUtilWarningThreshold	ディスク領域の使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5 分**です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VI-VMwareVMMemoryUsage-AT_ja_JP

このポリシーは、ゲスト仮想マシンとリソース プールによって使用されているメモリ使用量 (単位: MB) を監視します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Capacity] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

このポリシーは、仮想マシンとリソース プールの使用されているメモリ使用量の監視のため、マルチインスタンス ベースラインを使用します。自動しきい値決定により、しきい値は自動的に計算されます。しきい値の計算は、ゲスト仮想マシンとリソース プールの前日のホスト メモリ使用量に従って行われます。しきい値に達するかこれを超えると、VI-VMwareVMMemoryUsage-AT_ja_JP によって HPOM コンソールにアラートが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_MEM_USED • BYLS_LS_UUID • BYLS_LS_ROLE • BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	このポリシーによって HPOM コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_USED として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します。たとえば、パラメータ値として「3600」と入力すると、過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックが示すメモリ消費量の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックが示すメモリ消費量の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域のアラートを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MemUsageCutOff	仮想ゲスト コンピューターのメモリ使用量の監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Disk Usage Monitor ポリシー

VI-VMwareHostDiskUtilization-AT_ja_JP

VI-VMwareHostDiskUtilization-AT_ja_JP ポリシーは、物理ディスクが入出力に使用される時間を監視します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Capacity] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

このポリシーは、入出力のためのディスク使用率の監視のため、マルチインスタンス ベースラインを使用します。自動しきい値決定により、しきい値は自動的に計算されます。しきい値の計算は、前日の入出力操作のためのディスク使用率の平均割合に基づいて行われます。しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none">• BYLS_DISPLAY_NAME• BYLS_DISK_UTIL• BYLS_LS_UUID• BYLS_LS_ROLE• BYLS_LS_HOSTNAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	このポリシーによって HPOM コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_DISK_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します。たとえば、パラメータ値として「 3600 」と入力すると、過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	トリックが示すディスク領域の最小値を表示します。
MaximumValue	トリックが示すディスク領域の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。

MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	パラメータ名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループを表示します。
HostDiskUtilCutOff	ホスト コンピューターのディスク使用量の監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

イベント 監視ポリシー

イベント監視ポリシーは、vMA によって管理されている ESX/ESXi ホストまたは vCenter の重要なイベントを監視します。このグループには、監視ポリシーと設定ポリシーが含まれています。設定ポリシーには、VI SPI が監視するすべてのイベントを一覧表示する機能と、イベントを管理対象として追加する機能があります。



メッセージの重複を避け、VI SPI イベントを漏れなく取得するために、ESX/ESXi ホスト、vCenter、vMA マシンの時刻が正しく同期していることを確認してください。

監視ポリシーは、設定ポリシーのリストに含まれるイベントを監視し、イベントが発生するとアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。すべてのイベントは /var/opt/OV/log/vispi.txt に記録され、分析に使用できます。

コンソール ツリーでは、イベント ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Events]

VMware ESX/ESXi サーバー用のイベント タイプ ポリシー

VI-VMwareEventTypes_ja_JP

VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーは、設定ポリシーです。このポリシーは、VI SPI が監視するイベントを定義します。このポリシーには、次のイベント タイプが定義されています。



イベントは、ポリシー ウィンドウの [データ] タブに表示されます。重大なイベントとその修正イベントのような相補的なイベントは、コロンで区切られています。

- VmSuspendedEvent:VmResumingEvent
- VmPoweredOffEvent:VmPoweredOnEvent
- DrsEnteredStandbyModeEvent:DrsExitedStandbyModeEvent
- DrsDisabledEvent:DrsEnabledEvent
- VmRenamedEvent
- VmRemovedEvent
- DrsVmPoweredOnEvent
- DrsVmMigratedEvent
- NotEnoughResourcesToStartVmEvent
- VmBeingHotMigratedEvent
- VmFailedMigrateEvent
- VmMigratedEvent
- VmDiskFailedEvent
- VmFailoverFailed
- VmNoNetworkAccessEvent
- VmUuidChangedEvent
- VmUuidConflictEvent
- VmOrphanedEvent

- HostRemovedEvent
- HostShutdownEvent

他のイベント（上記以外）を VI-VMwareEventMonitor_ja_JP ポリシーで監視するには、VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーの設定ファイル（[データ] タブ）にイベントを追加してください。

新しく追加したイベントが送信するアラートメッセージの重要度は、デフォルトで「注意域」に設定されます。

コンソール ツリーでは、VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Events] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

VMware ESX/ESXi サーバー用のイベント監視ポリシー

VI-VMwareEventMonitor_ja_JP

VI-VMwareEventMonitor_ja_JP ポリシーは、VI-VMwareEventTypes_ja_JP ポリシーで定義されたイベントを監視し、そのタイプのイベントが発生すると HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
DataSource	データ ソース名をデフォルトで vCenter として表示します。ESX サーバーからイベントを監視するには、値を ESX に変更してください。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 15 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Events] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

ハードウェア監視ポリシー

ハードウェア監視ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバーの正常性とステータスを監視します。これらの Measurement Threshold ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバーのハードウェア コンポーネントの正常性を監視し、正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラートメッセージを送信します。

このポリシーは、VMware CIM SMASH/サーバー管理 API からデータを取得します。CIM SMASH API の詳細については、<http://www.vmware.com/support> に掲載されている VMware のドキュメントを参照してください。



VI SPI ハードウェア監視ポリシーによる監視およびアラート送信の対象は、各ハードウェアベンダーが公開しているプロパティのみです。

コンソール ツリーでは、ハードウェア ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Ethernet Port Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバー上のイーサネット ポートの正常性を監視します。このポリシーは、ポートの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none">• VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_NAME• VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_UUID• VMWARE_ETHERNETPORT_ELEMENT_NAME• VMWARE_ETHERNETPORT_DESCRIPTION• VMWARE_ETHERNETPORT_NETWORK_ADDRESSES• VMWARE_ETHERNETPORT_ENABLED_STATE• VMWARE_ETHERNETPORT_HEALTH_STATE• VMWARE_ETHERNETPORT_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 15 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Sensor Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバー上のすべてのデバイスに関連付けられているセンサーの正常性を監視します。このポリシーは、いずれかのセンサーの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none">• VMWARE_SENSOR_HOST_NAME• VMWARE_SENSOR_HOST_UUID• VMWARE_SENSOR_PART_COMPONENT• VMWARE_SENSOR_SENSOR_NAME• VMWARE_SENSOR_SENSOR_TYPE• VMWARE_SENSOR_HEALTH_STATE• VMWARE_SENSOR_OPERATIONAL_STATUS• VMWARE_SENSOR_CURRENT_READING
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **15** 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Chassis Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバーのシャーシの正常性を監視します。このポリシーは、シャーシの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_CHASSIS_HOST_NAME • VMWARE_CHASSIS_HOST_UUID • VMWARE_CHASSIS_ELEMENT_NAME • VMWARE_CHASSIS_DESCRIPTION • VMWARE_CHASSIS_UUID • VMWARE_CHASSIS_MANUFACTURER • VMWARE_CHASSIS_MODEL • VMWARE_CHASSIS_POWERON_STATUS • VMWARE_CHASSIS_HEALTH_STATE • VMWARE_CHASSIS_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **20** 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Processor Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバー上で動作しているプロセッサの正常性を監視します。このポリシーは、いずれかのプロセッサの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_PROCESSOR_HOST_NAME • VMWARE_PROCESSOR_HOST_UUID • VMWARE_PROCESSOR_ELEMENT_NAME • VMWARE_PROCESSOR_FAMILY • VMWARE_PROCESSOR_MODEL • VMWARE_PROCESSOR_CURRENT_CLOCK_SPEED • VMWARE_PROCESSOR_MAX_CLOCK_SPEED • VMWARE_PROCESSOR_EXTERNAL_BUS_CLOCK_SPEED • VMWARE_PROCESSOR_STEPPING • VMWARE_PROCESSOR_NUM_ENABLED_CORES • VMWARE_PROCESSOR_HEALTH_STATE • VMWARE_PROCESSOR_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **15** 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Fan Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバー上のファンの正常性を監視します。このポリシーは、いずれかのファンの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_FAN_HOST_NAME • VMWARE_FAN_HOST_UUID • VMWARE_FAN_ELEMENT_NAME • VMWARE_FAN_HEALTH_STATE • VMWARE_FAN_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi

スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **15** 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Physical Memory Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバーに関連付けられている物理メモリの正常性を監視します。このポリシーは、物理メモリの正常性に問題がある場合、HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Hardware] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_MEMORY_HOST_NAME • VMWARE_MEMORY_HOST_UUID • VMWARE_MEMORY_ELEMENT_NAME • VMWARE_MEMORY_CAPACITY • VMWARE_MEMORY_MAX_MEMORY_SPEED • VMWARE_MEMORY_HEALTH_STATE • VMWARE_MEMORY_OPERATIONAL_STATUS
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **15** 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

ログ監視ポリシー

ログ ファイル ポリシーは、Hyper-V ホストの重要なシステム ログを監視します。
コンソール ツリーでは、ログ ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs]

イメージ管理サービス管理ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_ImageAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルでイメージ管理サービス管理イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

The Hyper-V Image Management Service failed to start(Hyper-V イメージ管理サービスを起動できませんでした)。



このエラーはイベント ビューアに表示されます。HPOM for Windows サーバーでエラー メッセージを表示するには、[ファイル名を指定して実行] で **eventvwr** と入力します。イベント ビューアの GUI が開きます。このエラーが発生すると、[Windows ログ] → [セキュリティ] または [Windows ログ] → [システム] にメッセージが表示されます。

Microsoft Hyper-V 用のイメージ管理サービス動作ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_ImageOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルでイメージ管理サービス動作イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

The Hyper-V Image Management Service failed to start(Hyper-V イメージ管理サービスを起動できませんでした)

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー管理ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_HyperVisorAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで仮想マシンのハイパーバイザー管理イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- Hyper-V の起動は、レジストリ内で自動起動が無効に設定されているために中断されました
- Hyper-V の起動に失敗しました
- Hyper-V の起動に失敗しました。No Execute (NX) または DEP がプロセッサ上で有効化されていません

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー動作ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_HyperVisorOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで仮想マシンのハイパーバイザー動作イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- Hyper-V の起動は、レジストリ内で自動起動が無効に設定されているために中断されました
- Hyper-V の起動に失敗しました
- Hyper-V の起動に失敗しました。No Execute (NX) または DEP がプロセッサ上で有効化されていません

Microsoft Hyper-V 用の VMMS 管理ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_VMMSAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで、仮想マシンの VMMS 管理イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 仮想マシンが実行されているときに、Hyper-V 仮想マシン管理サービスがシャットダウンしました
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスを起動できませんでした
- 仮想マシンのディスク領域が間もなく不足します
- 仮想ネットワーク スイッチ名が見つかりませんでした
- 仮想ハード ディスク ファイルが見つかりません
- WMI プロバイダーが起動できませんでした
- 仮想マシン管理サービスが登録できませんでした
- 仮想マシン管理サービスは、仮想マシンを見つけることができませんでした
- 仮想ネットワーク スイッチが見つかりませんでした
- 仮想マシン管理サービスは、仮想マシンの実行状態を確認できませんでした
- 仮想マシン管理サービスは、仮想マシンを起動できませんでした
- Hyper-V VSS ライターを識別中にエラーが発生しました

- ドメイン名を登録できませんでした
- 新しい仮想マシンを作成できませんでした
- 仮想マシン バス (VMBus) を開始できません
- 仮想マシン バスが実行されていません
- スナップショット構成を読み込めません。構成が壊れています
- ネットワーク アダプターが適切に構成されていません
- 仮想ディスクを開けませんでした
- 仮想マシンの自動再起動が無効です
- 仮想マシンを一時停止できませんでした
- 仮想マシンを再開できませんでした
- スナップショットが壊れています
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- **Hyper-V** 仮想マシン管理サービスで予期しないエラーが発生しました
- **Hyper-V** 仮想マシン管理サービスを起動できませんでした
- **Hyper-V** 仮想マシン管理サービスが正常に開始しました
- 記憶域メディアをコントローラーにアタッチできません
- メディアを変更できません
- 仮想ハード ディスクのパスを変更できません
- バックグラウンドでのディスク結合が中断されました
- 仮想ディスクを開けません
- **Hyper-V** 記憶域プロバイダーへのハンドルを開けません
- **Hyper-V** 記憶域プロバイダーにアクセスできません
- 無効な MAC アドレスです
- 仮想コンピューターはセキュリティ識別子を削除できませんでした
- 操作を実行できませんでした。仮想コンピューターはこの操作を実行できる状態にありません
- 仮想コンピューターをオフにできませんでした
- 仮想コンピューターがワーカー プロセスの終了を待機中にタイムアウトしました
- スナップショットを作成できません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、数値ロックを変更できません
- 仮想コンピューターが実行中でないときに、キーを変更または送信できません
- 仮想コンピューターが使用可能な証明書を見つけることができません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、ブート順序を変更できません
- リセット中に仮想コンピューターを初期化できませんでした

VI-MSHyperV_VMMSOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルで仮想マシンの VMMS 動作イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 仮想マシンが実行されているときに、Hyper-V 仮想マシン管理サービスがシャットダウンしました
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスを起動できませんでした
- 仮想マシンのディスク領域が間もなく不足します
- 仮想ネットワーク スイッチ名が見つかりませんでした
- 仮想ハード ディスク ファイルが見つかりません
- WMI プロバイダーが起動できませんでした
- 仮想マシン管理サービスが登録できませんでした
- 仮想マシン管理サービスは、仮想マシンを見つけることができませんでした
- 仮想ネットワーク スイッチが見つかりませんでした
- 仮想マシン管理サービスは、仮想マシンの実行状態を確認できませんでした
- 仮想マシン管理サービスは、仮想マシンを起動できませんでした
- Hyper-V VSS ライターを識別中にエラーが発生しました
- ドメイン名を登録できませんでした
- 新しい仮想マシンを作成できませんでした
- 仮想マシン バス (VMBus) を開始できません
- 仮想マシン バスが実行されていません
- スナップショット構成を読み込めません。構成が壊れています
- ネットワーク アダプターが適切に構成されていません
- 仮想ディスクを開けませんでした
- 仮想マシンの自動再起動が無効です
- 仮想マシンを一時停止できませんでした
- 仮想マシンを再開できませんでした
- スナップショットが壊れています
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスで予期しないエラーが発生しました
- Hyper-V 仮想マシン管理サービスを起動できませんでした

- Hyper-V 仮想マシン管理サービスが正常に開始しました
- 記憶域メディアをコントローラーにアタッチできません
- メディアを変更できません
- 仮想ハード ディスクのパスを変更できません
- バックグラウンドでのディスク結合が中断されました
- 仮想ディスクを開けません
- Hyper-V 記憶域プロバイダーへのハンドルを開けません
- Hyper-V 記憶域プロバイダーにアクセスできません
- 無効な MAC アドレスです
- 仮想コンピューターはセキュリティ識別子を削除できませんでした
- 操作を実行できませんでした。仮想コンピューターはこの操作を実行できる状態にありません
- 仮想コンピューターをオフにできませんでした
- 仮想コンピューターがワーカー プロセスの終了を待機中にタイムアウトしました
- スナップショットを作成できません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、数値ロックを変更できません
- 仮想コンピューターが実行中でないときに、キーを変更または送信できません
- 仮想コンピューターが使用可能な証明書を見つけることができません
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、ブート順序を変更できません
- リセット中に仮想コンピューターを初期化できませんでした

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー ワーカー管理ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_WorkerAdminWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーの重要度レベルでソース **Microsoft-Windows-Hyper-V-Worker-Admin** の仮想マシン イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 静的 MAC アドレスがサポートされていません
- 仮想コンピューターの使用可能な MAC アドレスがありません
- ファイルを開けませんでした
- ハイパーバイザーが実行されていないため、仮想マシンを起動できませんでした
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、GUID、シリアル番号、基板シリアル番号、またはシャーシ資産タグを変更できません
- 回復不能な内部エラーが発生しました
- 仮想コンピューターをオンにできませんでした

- リセット後に仮想コンピューターを起動できませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンのメモリ不足エラー
- ネットワーク アダプターが適切に構成されていません
- 仮想マシンを開始できません
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想ディスクを開けませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンを初期化できませんでした

Microsoft Hyper-V 用のハイパーバイザー ワーカー動作ログ ファイル監視ポリシー

VI-MSHyperV_WorkerOperationalWarnError_ja_JP

このポリシーはログ ファイルを監視し、注意域またはエラーエラーの重要度レベルでソース **Microsoft-Windows-Hyper-V-Worker-Operational** の仮想マシン イベント ログ エントリを HPOM コンソールに転送します。

コンソール ツリーでは、これらのポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Logs] → [MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]**

このポリシーは、ログ ファイルに記録されている以下のエラーを検索します。

- 静的 MAC アドレスがサポートされていません
- 仮想コンピューターの使用可能な MAC アドレスがありません
- ファイルを開けませんでした
- ハイパーバイザーが実行されていないため、仮想マシンを起動できませんでした
- 仮想コンピューターがオンラインのときに、GUID、シリアル番号、基板シリアル番号、またはシャーシ資産タグを変更できません
- 回復不能な内部エラーが発生しました
- 仮想コンピューターをオンにできませんでした
- リセット後に仮想コンピューターを起動できませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンのメモリ不足エラー
- ネットワーク アダプターが適切に構成されていません
- 仮想マシンを開始できません
- 仮想マシンを開始しようとしてエラーが発生しました
- 物理デバイスが見つかりませんでした
- 仮想ディスクを開けませんでした
- イーサネット デバイスのスタートアップ中、ファイルを開くときにエラーが発生しました
- 仮想マシンを初期化できませんでした

パフォーマンス ポリシー

パフォーマンス監視は、潜在的なパフォーマンス低下を特定し、サービス品質に悪影響を与える前にそれらを予防的に解決するのに役立ちます。

コンソール ツリーでは、パフォーマンス ポリシーは以下の場所にあります。

[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance]

パフォーマンス問題に発展した根本原因を特定するために、パフォーマンス データを使用して、仮想化されたインフラストラクチャ全体のイベントを関連付けることができます。

HPVM 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-HPVMHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-HPVMHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、HPVM 用のホスト サーバー (管理ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [HPVM]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [HPVM - QuickStart]

VI-HPVMHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルの CPU 使用率
- ホスト レベルの CPU 実行キューの長さ
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none">• GBL_SYSTEM_ID• GBL_LS_TYPE• GBL_CPU_TOTAL_UTIL• GBL_RUN_QUEUE• BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL• BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	HPVM
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。

RunQueueLengthMajorThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
RunQueueLengthMinorThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
RunQueueLengthWarningThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラートメッセージは、前の表に記載したスクリプトパラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率と実行キューの値が正常値に到達すると、アラートメッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

IBM LPAR 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM AIX LPAR 用のフレーム（管理ノード）の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラートメッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - QuickStart]**

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- フレームレベルの CPU 使用率
- 最大 CPU を利用している LPAR (降順)

このポリシーは、フレーム内にある CPU に関して、フレームレベルで CPU 使用率を計算します。ただし、CPU 使用率が最大の LPAR のリストを作成する際は、BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL メトリックを使って CPU 使用率を計算します。このメトリックは、LPAR が所属するプール内にある CPU に関して、CPU 使用率を収集します。



このポリシーをホストマシンに配布する必要があります。このポリシーは、HP Operations Agent 8.60 および HP Performance Agent 5.0 でのみ動作します。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • GBL_SYSTEM_ID • GBL_LS_TYPE • BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_CPU_PHYSC
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、前の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率と実行キューの値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Microsoft Hyper-V 用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-MSHyperVHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-MSHyperVHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Microsoft Hyper-V 用のホスト サーバー (管理ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [MS Hyper-V]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [MS Hyper-V - QuickStart]

VI-MSHyperVHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルの CPU 使用率
- ホスト レベルの CPU 実行キューの長さ
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • GBL_SYSTEM_ID • GBL_LS_TYPE • GBL_CPU_TOTAL_UTIL • GBL_RUN_QUEUE • BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL • BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	Microsoft Hyper-V
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
RunQueueLengthMajorThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
RunQueueLengthMinorThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
RunQueueLengthWarningThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、前の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率と実行キューの値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisHostCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーン用のホスト サーバー (管理ノード) の CPU を監視し、パフォーマンスが設定されたしきい値より低下した場合にアラート メッセージを送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]

VI-OracleSolarisHostCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルの CPU 使用率
- ホスト レベルの CPU 実行キューの長さ
- 最大 CPU を利用しているゾーン (降順)

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • GBL_SYSTEM_ID • GBL_LS_TYPE • GBL_CPU_TOTAL_UTIL • GBL_RUN_QUEUE • BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL • BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
RunQueueLengthMajorThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
RunQueueLengthMinorThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
RunQueueLengthWarningThreshold	キュー内の最小プロセス数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

アラート メッセージは、前の表に記載したスクリプト パラメータの値に基づいて生成されます。ホスト CPU の使用率と実行キューの値が正常値に到達すると、アラート メッセージが自動的に確認されます。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareTotalVMCPUUtilMonitor_ja_JP

VI-VMwareTotalVMCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ホスト サーバー (管理ノード) の CPU に関する情報を監視して保持します。このポリシーは vMA によって管理されている特定のホストのすべての仮想マシンの CPU 使用率とレディ使用率を監視し、違反が発生した場合にアラート メッセージを HPOM コンソールに送信します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

VI-VMwareTotalCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、次の項目に関する情報を提供します。

- ホスト レベルの CPU 使用率
- ホスト レベルの CPU 実行キューの長さ
- 最大 CPU を利用している VM (降順)

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none">• BYLS_LS_ROLE• BYLS_LS_UUID• BYLS_LS_NAME• BYLS_LS_HOSTNAME• BYLS_LS_STATE• BYLS_LS_PARENT_UUID• BYLS_CPU_PHYS_READY_UTIL• BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL• BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUUtilMajorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilMinorThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUUtilWarningThreshold	ホスト マシンの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
CPUReadyTimeMajorThreshold	CPU のレディ時間の最小値が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。

CPUReadyTimeMinorThreshold	CPU のレディ時間の最小値が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
CPUReadyTimeWarningThreshold	CPU のレディ時間の最小値が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の仮想マシンによる Host CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareHostsCPUUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-VMwareHostsCPUUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバーの下にあるアクティブな VM のホスト CPU の総使用率 (サービス コンソールの CPU 使用率も含む) を計算します。

このポリシーのしきい値は、前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_ROLE • BYLS_LS_HOSTNAME • BYLS_CPU_PHYS_TOTAL_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
HostCPUUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

IBM LPAR 用の Total Frame CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-IBMLPARFrameCPUUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、フレーム内のすべてのアクティブな LPAR の CPU 使用率の合計を計算します。

このポリシーのしきい値は、LPAR による前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [IBM LPAR]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • FRAME_CPU_UTIL • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を FRAME_CPU_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
LPARFrameCPUUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

HPVM 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-HPVMGuestCPUEntlUtilMonitor_ja_JP

VI-HPVMCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、HPVM ゲストの現在の **CPU** 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て **CPU** に対する論理システムの **CPU** 使用率を示します。割り当て **CPU** とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシング ユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、ゲストによる前の **CPU** 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[HPVM]**
- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[HPVM - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_CPU_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	HPVM
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

IBM LPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARCPUEntlUtilMonitor_ja_JP

このポリシーは、**AIX LPAR** の現在の **CPU** 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て **CPU** に対する論理システムの **CPU** 使用率を示します。割り当て **CPU** とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシング ユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、**LPAR** による前の **CPU** 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**



このポリシーは、**LPAR** で実行されている **WPAR** を監視しません。**WPAR** を監視するには、**VI-IBMWPARCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP** ポリシーを配布します。「**IBM WPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー**」(66 ページ) を参照してください。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_CPU_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。

DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

IBM WPAR 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMWPARCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、**AIX WPAR** の現在の **CPU** 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て **CPU** に対する論理システムの **CPU** 使用率を示します。割り当て **CPU** とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシング ユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、**WPAR** による前の **CPU** 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。



VI-IBMWPARCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、**PA 5.0** が実行されている **LPAR** で作成された **WPAR** のみ監視します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_CPU_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM WPAR
スクリプト パラメータ	説明

MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

Microsoft Hyper-V 用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-MSHyperVGuestCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、Microsoft Hyper-V の現在の CPU 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て CPU に対する論理システムの CPU 使用率を示します。割り当て CPU とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシング ユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、Microsoft Hyper-V による前の CPU 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラートが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[MS Hyper-V]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[MS Hyper-V - Advanced]**.

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_CPU_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	Microsoft Hyper-V
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。

DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

Oracle Solaris ゾーン用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisZoneCPUEntlUtilMonitor_ja_JP

このポリシーは、**Solaris** ゾーンの現在の **CPU** 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て **CPU** に対する論理システムの **CPU** 使用率を示します。割り当て **CPU** とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシング ユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、ゾーンによる前の **CPU** 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[Oracle Containers]**
- **[Infrastructure Management]** → **[<言語>]** → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[Oracle Containers - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_CPU_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の CPU Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-VmWareGuestCPUEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

このポリシーは、**VMware ESX/ESXi** サーバーの現在の **CPU** 使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当て **CPU** に対する論理システムの **CPU** 使用率を示します。割り当て **CPU** とは、論理システムへの割り当てが保証されているプロセッシング ユニットの数です。

このポリシーのしきい値は、**ESX/ESXi** サーバーによる前の **CPU** 使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_CPU_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_CPU_ENTL_UTIL として表示します。

BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
CPUEntlUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

IBM LPAR 用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-IBMLPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、アクティブな状態にあるすべての **IBM LPAR** の現在のメモリ使用率(%)を計算します。これは、最小割り当てメモリに対する **LPAR** のメモリ使用率を示します。

割り当てメモリとは、論理システムへの割り当てが保証されているメモリ量です。

このポリシーのしきい値は、**LPAR** による前のメモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_MEM_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_LS_STATE • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM LPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。

DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MEMEntlUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

IBM WPAR 用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMWPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-IBMWPARMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、アクティブな状態にある IBM WPAR (監視 LPAR で実行されている) の現在のメモリ使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当てメモリに対する WPAR のメモリ使用率を示します。

割り当てメモリとは、論理システムへの割り当てが保証されているメモリ量です。

このポリシーのしきい値は、WPAR による前のメモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[IBM LPAR]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[IBM LPAR - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_MEM_ENTL_UTIL • BYLS_LS_NAME • BYLS_LS_STATE • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	IBM WPAR
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。

DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MEMEntlUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

Oracle Solaris ゾーン用の Memory Entitlement Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-OracleSolarisMemoryEntlUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、実行中の状態にあるすべての Solaris ゾーンの現在のメモリ使用率 (%) を計算します。これは、最小割り当てメモリに対するゾーンのメモリ使用率を示します。

割り当てメモリとは、論理システムへの割り当てが保証されているメモリ量です。

このポリシーのしきい値は、ゾーンによる前のメモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって **HPOM** コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[Oracle Containers]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[Oracle Containers - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_MEM_ENTL_UTIL (ゾーンがキャップされている場合、キャップされたメモリに対して計算され、ゾーンのキャップが解除されている場合は、合計物理メモリに対して計算されます) • BYLS_LS_NAME • BYLS_LS_STATE • BYLS_DISPLAY_NAME • GBL_LS_TYPE
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。

DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_ENTL_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された割り当てメモリ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MEMEntlUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。



メモリ キャップを使用しているゾーンの場合、メトリックによって生成される値と、システム コマンド **prstat -z** によって与えられる値の間に少し誤差があります。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Network Interface In-Byte Rate Monitor ポリシー

VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP

VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーは、任意の間隔でネットワーク インタフェースの受信バイトまたは受信パケット率を監視します。管理ノード上にあるネットワーク インタフェースの受信バイトまたはパケットのすべてのインスタンスを総合的に監視します。自動しきい値決定により、前日のネットワーク インタフェース受信バイト率に従って自動的にしきい値が計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な結果を得るには、**HP Performance Agent** で 4 週間分のデータが収集されてからポリシーを配布してください。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_NET_IN_BYTE • BYLS_NET_IN_PACKET
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	VI-VMwareNetifInbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。

DataMetric	メトリック名を BYLS_NET_IN_BYTE として表示します。
UsePacketNumbers	後続のパラメータのバイト数の代わりに、正味送信パケット数を監視するには、この値を true に設定します。デフォルトでは、この値は false に設定されています。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された受信バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された受信バイト率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorHighSeverity	MinorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の高い警戒域のメッセージが生成されます。
MajorHighSeverity	MajorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の高い重要警戒域のメッセージが生成されます。
WarningLowSeverity	WarningDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の低い注意域のメッセージが生成されます。
MinorLowSeverity	MinorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の低い警戒域のメッセージが生成されます。
MajorLowSeverity	MajorDeviations の正常値を超える違反が発生すると、ポリシーによって重要度の低い重要警戒域のメッセージが生成されます。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
HostNetifInbyteCutOff	ホスト サーバーのネットワーク インタフェースの監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Network Interface Out-Byte Rate Monitor ポリシー

VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP

VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーは、任意の間隔でネットワーク インタフェースの送信バイトまたは受信パケット率を監視します。管理ノード上にあるネットワーク インタフェースの送信バイトまたはパケットのすべてのインスタンスを総合的に監視します。自動しきい値決定により、前日のネットワーク インタフェース送信バイト率に従って自動的にしきい値が計算されます。

このポリシーは履歴データに依存します。正確な結果を得るには、HP Performance Agent で 4 週間分のデータが収集されてからポリシーを配布してください。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none">• BYLS_NET_OUT_BYTE• BYLS_NET_OUT_PACKET
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageApplication	VI-VMwareNetifOutbyteBaseline-AT_ja_JP ポリシーによって管理コンソールに送信されるメッセージを特定するための適切な値を入力します。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_NET_OUT_BYTE として表示します。
UsePacketNumbers	後続のパラメータのバイト数の代わりに、正味送信パケット数を監視するには、この値を true に設定します。デフォルトでは、この値は false に設定されています。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された送信バイト率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された送信バイト率の最大値を表示します。

WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、 HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
InstanceSource	ポリシー名を変更しないでください。ポリシーは名前を使用してソースを取得します。

Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
HostNetifOutbyteCutOff	ホスト サーバーのネットワーク インタフェースの監視を止める基準とする値を設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Network Interface Card Monitor ポリシー

VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP

VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP ポリシーは、各 ESX/ESXi サーバーにインストールされているネットワーク インターフェイス カードのパフォーマンスを監視します。

しきい値に達するかこれを超えると、VI-VMwareHostNICMonitor_ja_JP ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。



デフォルトでは、重要なアラートはマスクされます。このポリシーの重要なアラートを受信する場合は、ポリシーを開いて NICByteRateCriticalThreshold および NICPktRateCriticalThreshold の各スクリプト パラメータを適宜変更します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYNETIF_IN_BYTE_RATE • BYNETIF_OUT_BYTE_RATE • BYNETIF_IN_PACKET_RATE • BYNETIF_OUT_PACKET_RATE • BYNETIF_NAME • BYNETIF_ID • BYNETIF_NET_TYPE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
NICByteRateMajorThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均バイト数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICByteRateMinorThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均バイト数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。

NICByteRateWarningThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均バイト数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
NICPktRateMajorThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均パケット数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICPktRateMinorThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均パケット数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
NICPktRateWarningThreshold	インターフェイスから 1 秒あたりに転送される平均パケット数が指定の値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
UsePktInfo	このポリシーでパケット転送速度を監視する場合、この変数を設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Memory Performance Monitor ポリシー

VI-VMwareVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP

VI-VMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP ポリシーは、仮想マシンのメモリ パフォーマンスを監視します。仮想マシンによって使用されるメモリ容量を、使用権を持つ仮想メモリ容量と比較します。

仮想マシンによって使用されているメモリ容量を計算するため、仮想マシンによって (プロセス、アプリケーション、サービスの実行のために) 実際に使用されているメモリ容量と、ホスト オペレーティング システムが使用量増大に備えて保持しているメモリ容量の差が計算されます。ホスト オペレーティング システムは、使用量増大によって、ゲスト仮想マシンに割り当てられているメモリの拡張や縮小を行い、ゲスト仮想マシン全体のメモリ使用量を制御します。

しきい値に達するかこれを超えると、VI-VMwareVMMemoryPerformanceMonitor_ja_JP ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_ROLE • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_LS_UUID • BYLS_MEM_SWAPOUT
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
VMSwapUtilMajorThreshold	仮想マシンのスワップ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
VMSwapUtilMinorThreshold	仮想マシンのスワップ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
VMSwapUtilWarningThreshold	仮想マシンのスワップ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debuglevel	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Host Memory Health Monitor ポリシー

VI-VMwareHostMemoryHealthMonitor_ja_JP

VI-HostMemoryHealthMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi サーバーのホスト マシンの動作状況をメモリ使用率の観点で監視します。これを使用して、ホスト コンピューターのメモリの可用性や使用率を監視できます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_LS_UUID • BYLS_MEM_PHYS_UTIL • BYLS_LS_ROLE • BYLS_MEM_HEALTH • BYLS_LS_HOSTNAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
UseMemoryHealthMetric	メトリック BYLS_MEM_HEALTH の使用を示すフラグ値である true または false を表示します。ホスト マシンで使用可能なメモリ容量を監視するには、この値を true に設定します。 true に設定した場合、以下のパラメータによってホストの使用可能なメモリが監視されます。 false に設定した場合、以下のパラメータによってホストのメモリ使用率が監視されます。
HostMemHealthMajorThreshold	仮想マシンのホスト メモリ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
HostMemHealthMinorThreshold	仮想マシンのホスト メモリ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
HostMemHealthWarningThreshold	仮想マシンのホスト メモリ使用率レベルが指定した値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の仮想マシンによる Host Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareHostsMemoryUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-VMwareHostsMemoryUtilMonitor-AT_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi ホスト サーバーの下にあるすべてのアクティブな VM による合計ホスト メモリ使用率 (サービス コンソールのメモリ使用率も含む) を計算します。

このポリシーのしきい値は、前のホスト メモリ使用率に基づいて自動的に計算されます。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_ROLE • BYLS_LS_HOSTNAME • BYLS_MEM_PHYS_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_PHYS_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン期間として定義する時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示された CPU 使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
HostMemUtilCutOff	メモリ使用率の監視を停止する基準となる値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の仮想マシンによる Total Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareTotalVMMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-VMwareTotalVMMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware ESX/ESXi サーバー上にあるすべてのアクティブな VM による合計メモリ使用率 (%) を計算します。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_PARENT_UUID • BYLS_MEM_PHYS_UTIL • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_LS_ROLE • BYLS_LS_UUID • BYLS_LS_NAME • BYLS_LS_HOSTNAME • BYLS_LS_STATE
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MemUtilMajorThreshold	合計メモリ使用率(%) が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
MemUtilMinorThreshold	合計メモリ使用率(%) が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
MemUtilWarningThreshold	合計メモリ使用率(%) が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

IBM LPAR 用の Frame Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-IBMLPARFrameMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-IBMLPARFrameMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、IBM AIX フレームのメモリ使用率を監視し、AIX フレームの物理メモリ使用率で異常な増大があった場合にアラートを発行します。

しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。アラート メッセージには、次の情報が含まれています。

- フレーム内の LPAR の名前。
- LPAR に割り当てられているメモリ量 (MB 単位)。
- LPAR で使用されているメモリ量 (MB 単位)。
- LPAR でフレームに対して使用されているメモリの割合。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [IBM LPAR]

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [IBM LPAR - QuickStart]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_MEM_ENTL_UTIL • BYLS_MEM_ENTL • GBL_LS_TYPE • GBL_SYSTEM_ID • BYLS_DISPLAY_NAME • BYLS_LS_TYPE • BYLS_LS_NAME
サポートしているプラットフォーム	IBM AIX フレーム
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MemUtilMajorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
MemUtilMinorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
MemUtilWarningThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Physical Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisHostMemoryUtilMonitor_ja_JP

VI-OracleSolarisHostMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンのメモリ使用率を監視します。しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [Oracle Containers]
- [Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - QuickStart]

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • GBL_MEM_UTIL • GBL_MEM_FREE • BYLS_MEM_ENTL_UTIL • BYLS_MEM_ENTL • BYLS_DISPLAY_NAME
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
MemUtilMajorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えていて、使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が指定されたしきい値未満の場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
FreeMemAvailMajorThreshold	
MemUtilMinorThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えていて、使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が指定されたしきい値未満の場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
FreeMemAvailMinorThreshold	
MemUtilWarningThreshold	メモリ使用率が指定したしきい値を超えていて、使用可能な空きメモリ容量 (MB 単位) が指定されたしきい値未満の場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
FreeMemAvailWarningThreshold	
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

Oracle Solaris ゾーン用の Swap Utilization Monitor ポリシー

VI-OracleSolarisZoneSwapUtilMonitor-AT_ja_JP

VI-OracleSolarisZoneSwapUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、Solaris ゾーンのスワップ使用率を監視します。しきい値に達するかこれを超えると、ポリシーによって HPOM コンソールにアラート メッセージが送信されます。メッセージの重要度は、違反したしきい値のレベルによって、重要警戒域、警戒域、注意域のいずれかです。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [Oracle Containers]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [Oracle Containers - Advanced]**

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • BYLS_LS_NAME • BYLS_MEM_SWAP_UTIL
サポートしているプラットフォーム	Oracle Solaris ゾーン
スクリプト パラメータ	説明

MessageObject	送信メッセージのアプリケーション。
DataSource	データ ソース名を SCOPE として表示します。
DataObject	データ オブジェクト名を LOGICAL として表示します。
DataMetric	メトリック名を BYLS_MEM_SWAP_UTIL として表示します。
BaselinePeriod	ベースライン 期間として定義する 時間を入力します (例: 3600 秒)。現在の時間から遡って、この時間が現在の基準として使用されます。過去 3600 秒 (1 時間) が現在のベースライン期間になります。
MinimumValue	メトリックによって示されたスワップ使用率の最小値を表示します。
MaximumValue	メトリックによって示されたスワップ使用率の最大値を表示します。
WarningDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに注意域メッセージを送信します。このパラメータに適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MinorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに警告域メッセージを送信します。このパラメータには、 WarningDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
MajorDeviations	正常値からの標準偏差の数であり、この値に達するとポリシーは HPOM コンソールに重要危険域メッセージを送信します。このパラメータには、 MinorDeviations に指定した値より大きい適切な値を設定します。パラメータを無効にするには、この値を 5 に設定します。
WarningHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorHighSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations に指定した値だけ超える場合に HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。

WarningLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または WarningDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信される警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MinorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MinorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MajorLowSeverity	現在のデータがサンプル データ平均に達した、または MajorDeviations で指定した値だけ下回った場合に、HPOM コンソールに送信する警告メッセージの重要度を表示します。パラメータを無効にするには、この値を none に設定します。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
SwapUtilCutOff	CPU 使用率の監視を停止する基準とする値を設定します。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **30** 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

値が正常値レベルに戻ったら、アラート メッセージが自動的に確認されます。

VMware データセンター用の Data Collector ポリシー

VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP

VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーは、VMware データセンターの CPU、メモリ、およびデータストア パフォーマンス データに関するデータを収集し、CODA に記録します。デフォルトの記録間隔は **30** 分です。要件に応じて記録間隔を変更できます。

CODA に記録されるメトリック	<ul style="list-style-type: none"> VMWARE_VC_NAME VMWARE_DC_NAME VMWARE_DC_CPU_UTIL VMWARE_DC_CPU_USED VMWARE_DC_CPU_TOTAL VMWARE_DC_MEMORY_UTIL VMWARE_DC_MEMORY_USED VMWARE_DC_MEMORY_TOTAL VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL VMWARE_DC_DATASTORE_FREE VMWARE_DC_DATASTORE_TOTAL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]**

VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシー、VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシー、および VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集および記録されたデータに基づいてアラートを発行します。

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 30 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware データセンター用の CPU Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareDCdataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「[VMware データセンター用の Data Collector ポリシー](#)」を参照してください)。

VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware データセンター レベルでの総 CPU 使用率を監視します。VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VI-VMwareDCCPUUtilMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> VMWARE_DC_CPU_UTIL VMWARE_DC_NAME VMWARE_VC_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DCCPUUtilMajorThreshold	データセンター レベルでの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。

DCCPUUtilMinorThreshold	データセンター レベルでの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
DCCPUUtilWarningThreshold	データセンター レベルでの CPU 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware データセンター用の Memory Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareDCdataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「**VMware データセンター用の Data Collector ポリシー**」を参照してください)。

VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware データセンター レベルでの総メモリ使用率を監視します。VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VI-VMwareDCMemoryUtilMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_DC_MEMORY_UTIL • VMWARE_DC_NAME • VMWARE_VC_NAME
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DCMemoryUtilMajorThreshold	データセンター レベルでのメモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。

DCMemoryUtilMinorThreshold	データセンター レベルでのメモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCMemoryUtilWarningThreshold	データセンター レベルでのメモリ使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware データセンター用の Datastore Utilization Monitor ポリシー

VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareDCdataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「[VMware データセンター用の Data Collector ポリシー](#)」を参照してください)。

VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP ポリシーは、VMware データセンター レベルでの総データストア (ディスク領域) 使用率を監視します。VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて、VI-VMwareDCDataStoreUtilMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

使用するメトリック	<ul style="list-style-type: none"> • VMWARE_VC_NAME • VMWARE_DC_NAME • VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL
サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DCDataStoreUtilMajorThreshold	データセンター レベルでのデータ ストア (ディスク領域) 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。

DCDataStoreUtilMinorThreshold	データセンター レベルでのデータ ストア (ディスク領域) 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DCDataStoreUtilWarningThreshold	データセンター レベルでのデータ ストア (ディスク領域) 使用率が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5 分**です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー

VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP

VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーは、Virtual Machine File System (VMFS) のディスク領域使用率、LUN 待ち時間、およびディスクのスループットに関するデータを収集し、CODA に記録します。

VMFS は、VMware のゲスト ディスク ファイルが格納されるデータ ストレージ ボリュームを表しています。

このポリシーは VMware の API を使用して、次の情報を取得します。

- 特定のホストに接続されているストレージ デバイス
- HBA デバイス番号
- ホスト名
- ホストの UUID
- ホストの場所
- ファイル システム
- 領域使用率
- 最大容量
- 使用可能領域
- 使用率 (%)
- 合計読み取り待ち時間
- 合計書き込み待ち時間
- デバイス読み取り待ち時間
- デバイス書き込み待ち時間
- カーネル読み取り待ち時間

- カーネル書き込み待ち時間
- 発行したコマンド数
- 中断したコマンド数
- バス リセット数
- 読み取りスループット
- 書き込みスループット

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - QuickStart]**

このポリシーのデフォルトの記録間隔は 30 分です。監視対象のインスタンスが多数ある場合、正確なデータを収集するには、ポリシーのポーリング間隔を適切な値に設定する必要があります。

VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Read Latency Monitor ポリシー

VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照してください)。

VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP ポリシーが監視するのは以下のとおりです。

- VMFS 読み取り待ち時間
- VMFS デバイス読み取り待ち時間
- VMFS カーネル読み取り待ち時間

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照)、VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
ReadLatencyMajorThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
ReadLatencyMinorThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
ReadLatencyWarningThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。

AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5 分**です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Write Latency Monitor ポリシー

VI-VMFSWriteLatencyMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照してください)。

VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP ポリシーが監視するのは以下のとおりです。

- VMFS 読み取り待ち時間
- VMFS デバイス読み取り待ち時間
- VMFS カーネル読み取り待ち時間

VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照)、VI-VMFSReadLatencyMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
WriteLatencyMajorThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
WriteLatencyMinorThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
WriteLatencyWarningThreshold	読み取り待ち時間が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。

AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Performance]** → **[VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management]** → [**<言語>**] → **[Virtualization Infrastructure]** → **[Policies Grouped by Vendor]** → **[VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5 分**です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Disk Error Monitor ポリシー

VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照してください)。

VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP ポリシーは、ディスク バス リセット数と終了したディスク コマンド数を監視します。VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照)、VI-VMwareDiskErrorMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DiskBusResetMajorThreshold	ディスク バス リセット数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskBusResetMinorThreshold	ディスク バス リセット数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskBusResetWarningThreshold	ディスク バス リセット数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskCommandsAbortedMajorThreshold	終了したディスク コマンド数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。

DiskCommandsAbortedMinorThreshold	終了したディスク コマンド数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラート メッセージが生成されます。
DiskCommandsAbortedWarningThreshold	終了したディスク コマンド数が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラート メッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラート メッセージの送信元をリモート ホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージ グループ。
Debug	トレース メッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレース メッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレース ファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は 5 分です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

VMware ESX/ESXi サーバー用の Disk Throughput Monitor ポリシー

VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP



このポリシーは、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されたデータに依存するため、VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーの配布後 **30 分**してから配布する必要があります (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照してください)。

VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP ポリシーは、ディスク読み取りスループット速度とディスク書き込みスループット速度を監視します。

VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP ポリシーによって CODA に記録されたデータに基づいて (「[VMware ESX/ESXi サーバー用の VMFS Utilization Data Collector ポリシー](#)」を参照)、VI-VMwareDiskThroughputMonitor_ja_JP ポリシーは HPOM コンソールにアラート メッセージを送信します。

サポートしているプラットフォーム	VMware ESX/ESXi
スクリプト パラメータ	説明
DiskReadThroughputMajorThreshold	ディスクの読み取りスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラート メッセージが生成されます。

DiskReadThroughputMinorThreshold	ディスクの読み取りスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskReadThroughputWarningThreshold	ディスクの読み取りスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskWriteThroughputMajorThreshold	ディスクの書き込みスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「重要警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskWriteThroughputMinorThreshold	ディスクの書き込みスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「警戒域」のアラートメッセージが生成されます。
DiskWriteThroughputWarningThreshold	ディスクの書き込みスループット速度が指定したしきい値を超えている場合、ポリシーによって重要度が「注意域」のアラートメッセージが生成されます。
AssignMessageToRemoteHost	アラートメッセージの送信元をリモートホストとして表示するには、この値を 1 に設定します。デフォルトでは、メッセージは送信元の管理ノードに割り当てられています。
MessageGroup	送信メッセージのメッセージグループ。
Debug	トレースメッセージを無効にするには、この値を 0 に設定します。コンソールでトレースメッセージを受信するには 1 、管理ノードのトレースファイルにメッセージを記録するには 2 に設定します。

コンソール ツリーでは、このポリシーは以下の場所にあります。

- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Performance] → [VMware ESX]**
- **[Infrastructure Management] → [<言語>] → [Virtualization Infrastructure] → [Policies Grouped by Vendor] → [VMware ESX - Advanced]**

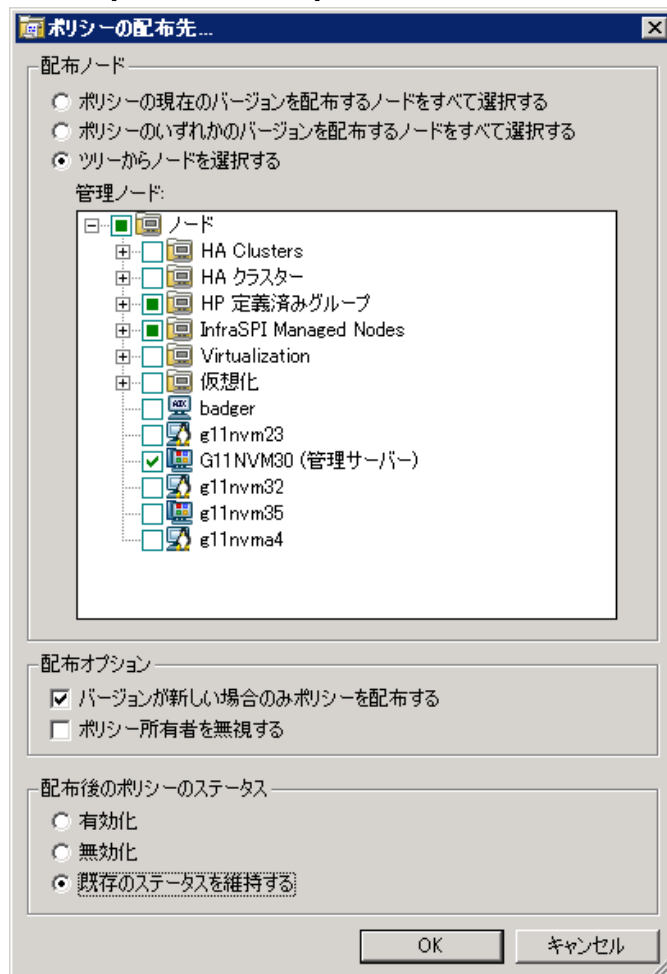
このポリシーのデフォルトのポーリング間隔は **5 分**です。要件に応じて、ポリシーのしきい値設定とポーリング間隔を変更できます。

HPOM for Windows 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布

管理サーバーからポリシーを手動で配布するには、以下の手順を実行します。

- 1 配布するポリシーを右クリックします。
- 2 メニューから **[すべてのタスク]** を選択します。
- 3 **[配布先ノード]** を選択します。[ポリシーの配布先] ダイアログ ボックスが開きます。
- 4 **[ツリーからノードを選択する]** オプションを選択します。管理ノードのリストから、ポリシーを配布するノードを選択します。
- 5 **[OK]** をクリックします。

図1 [ポリシーの配布先] ダイアログ ボックス



HPOM for UNIX 管理サーバーからの VI SPI ポリシーの配布

ポリシーを配布する前に、管理サーバーに既にノードが追加された状態であり、**HP Operations Agent** ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。管理サーバーにノードを追加する方法の詳細は、**HP Operations Manager for Unix** オンライン ヘルプを参照してください。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、Solaris) 管理サーバーからポリシーを配布するには、以下の手順を実行します。

タスク 1: ポリシーまたはポリシー グループの割り当て

- 1 管理者として **HPOM** にログインします。**HPOM** 管理者用 UI が表示されます。
- 2 [登録オブジェクト] カテゴリの **[登録ポリシー]** をクリックします。[登録ポリシー] ウィンドウが開きます。
- 3 [登録ポリシー] ウィンドウで、ノードまたはノード グループに割り当てるポリシーまたはポリシー グループを選択します。
- 4 **[アクションを選択]** ドロップダウン ボックスから **[ノード/ノード グループに割り当て ...]** を選択し、**[submit]** をクリックします。
[セレクト] ウィンドウが開きます。
- 5 ノードまたはノード グループを選択し、**[OK]** をクリックします。
選択したポリシーがノードに割り当てられます。

タスク 2: ポリシーの配布

- 1 **HPOM** 管理者用 UI から、[登録オブジェクト] カテゴリの **[登録ノード]** をクリックします。[登録ノード] ウィンドウが開きます。
- 2 [登録ノード] ウィンドウで、ポリシーの配布先となるノードまたはノード グループを選択します。
- 3 **[アクションを選択]** ドロップダウン ボックスから **[設定を配布 ...]** を選択し、**[submit]** をクリックします。
選択ウィンドウが開きます。
- 4 **[ポリシーの配布]** チェック ボックスをオンにし、**[OK]** をクリックします。
このポリシーは、選択したノードに配布されます。

Virtualization Infrastructure SPI のツール

Virtualization Infrastructure SPI には、仮想化されたインフラストラクチャを管理するための多くの設定済みツールがあります。これらのツールは、VMware vMA によって管理されている VMware ESX および ESXi サーバーでサポートされています。

HPOM for Windows 管理サーバーからツールを起動するには、以下の手順を実行します。

- 1 コンソール ツリーの **[ツール]** フォルダで、**[仮想化インフラストラクチャ]** フォルダ を選択します。
- 2 ツールをダブルクリックします。**[このツールの起動場所の選択]** ウィンドウが開きます。
- 3 **[ノード、グループ、またはサービスを 1 つ以上選択してください。]** 項で、ツールを起動するホストサーバー ノードを選択します。
- 4 **[起動]** をクリックします。**[パラメータの編集]** ページが表示されます。
- 5 **[パラメータ]** テキスト ボックスを空白のままにして vMA によって管理されているすべてのホストに関する情報を表示するか、ホスト名を入力して特定のホストに関する情報を表示します。
- 6 **[起動]** をクリックします。**[ツールのステータス]** ウィンドウが表示されます。起動されているツールとツールの出力の一覧が表示されます。

HPOM for UNIX 管理サーバーからツールを起動するには、以下の手順を実行します。

- 1 管理者用 UI の **[登録ツール]** → **[仮想化インフラストラクチャ]** に移動します。
- 2 **[VMware ホスト情報]** ツールを右クリックし、**[カスタマイズ/起動]** を選択します。**[ツール起動 - カスタマイズ ウィザード]** ウィンドウが開きます。
- 3 ノード リストで、ツールを起動するホスト サーバー ノードを選択します。
- 4 ウィザードで **[選択の取込み]** をクリックします。ノードが **[選択したノード]** リストに追加されます。
- 5 **[次へ]** をクリックします。
- 6 **[ツール実行に必要な情報を追加してください]** ページで、その他の情報を入力するか、各フィールドを空白のままにします。
- 7 **[完了]** をクリックします。ツールの出力が表示されます。

ホスト情報ツール

VMware ホスト情報

このツールは、VMware vMA によって管理されているホスト システムに関する情報を表示します。ブート時間、ファイル システム、ホストのステータス、メモリ使用量などの情報が表示されます。デフォルトでは、vMA によって管理されている各ホストに関する情報が表示されます。1 つのシステムに関する情報も表示できます。

中断されている仮想マシン一覧ツール

中断されている VMware の VM 一覧

このツールは、vMA によって管理され、中断または電源がオフにされているすべての仮想コンピュータを表示します。デフォルトでは、vMA によって管理されているサーバーでホストされている仮想マシンに関する情報が表示されます。1 つのサーバーでホストされている仮想マシンに関する情報も表示できます。

仮想マシン一覧ツール

VMware の VM 一覧

このツールは、**vMA** によって管理されているすべての仮想コンピュータを表示します。デフォルトでは、**vMA** によって管理されているサーバーでホストされている仮想マシンが表示されます。1 つのサーバーでホストされている仮想マシンの一覧も表示できます。

リソース プール情報ツール

VMware リソース プール情報

このツールは、**VMware vMA** によって管理されているリソース プールに関する情報を表示します。設定されている保証最小 **CPU** ユニット数、予約されているメモリ容量、最小プロセッサ容量などの情報が表示されます。デフォルトでは、**vMA** によって管理されているサーバーでホストされている各リソース プールに関する情報が表示されます。1 つのシステムでホストされているリソース プールに関する情報も表示できます。このツールでは、[パラメータの編集] ページは表示されません。

第5章 Virtualization Infrastructure SPI のレポートとグラフ

Virtualization Infrastructure SPI と HP Reporter を統合することにより、管理ノードから収集したメトリック データに基づいてレポートを生成できます。レポートから、仮想リソースの全体像を把握できます。また、グラフを作成して、収集されたメトリック データを分析することもできます。Virtualization Infrastructure SPI で収集したデータからレポートとグラフを作成して表示するには、HP Reporter と HP Performance Manager を HPOM と併用します。

Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポートから、仮想リソースの全体像を把握できます。Virtualization Infrastructure SPI と HP Reporter を統合することにより、管理ノードから収集したメトリック データに基づいてレポートを生成できます。

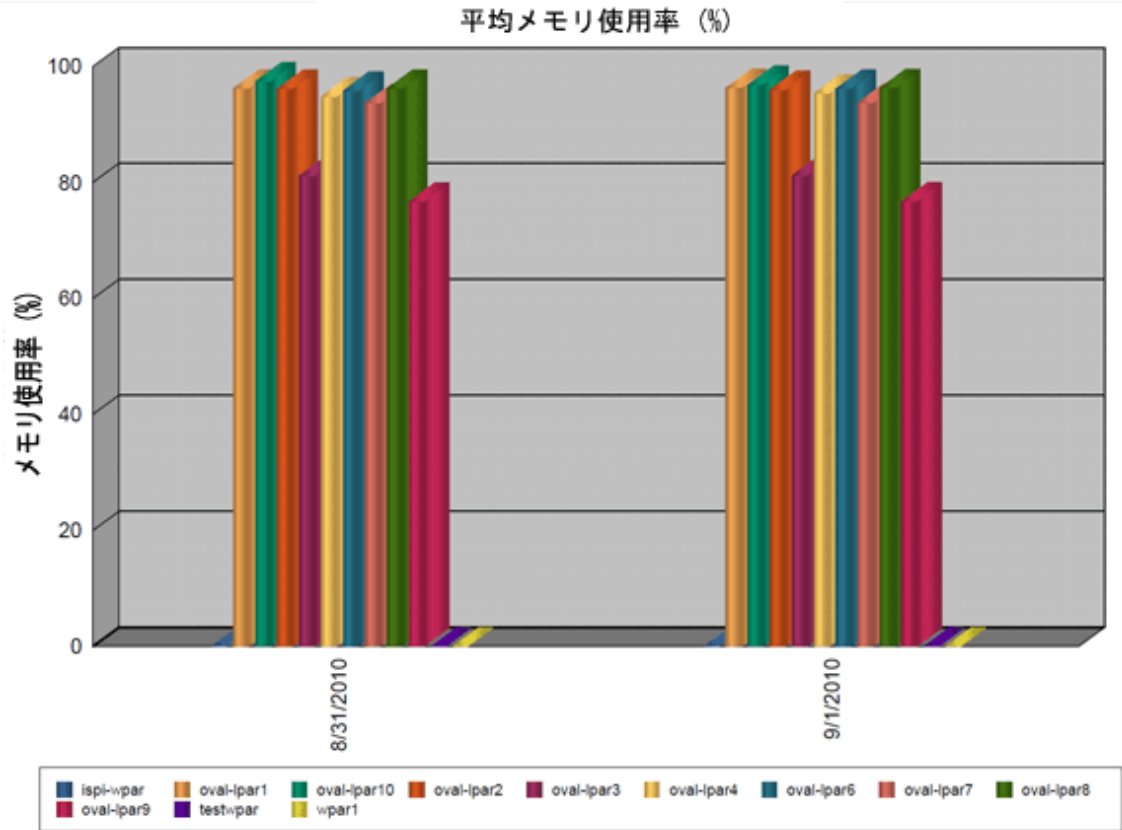
Virtualization Infrastructure SPI のレポートには、HPOM コンソールからアクセスできます。HP Reporter パッケージをインストールするには、『Infrastructure SPIs インストール ガイド』を参照してください。

HPOM for Windows から Virtualization Infrastructure SPI のレポートを表示するには、コンソール ツリーで [レポート] → [Virtualization Infrastructure] を選択して展開します。必要なレポートを選択して右クリックし、[レポートの表示] を選択すると、レポートが表示されます。

また、Virtualization Infrastructure SPI の [レポート] フォルダは、データがノードで収集され、Service Reporter による統合プロセスが完了するまで、作成されません。通常、統合プロセスはノードが管理対象になってから 24 時間後に完了します。

HP Reporter を HPOM 管理サーバー (Windows、UNIX、Linux、または Solaris オペレーティング システム向け) に接続されている別のシステムにインストールした場合、HP Reporter システムでレポートを表示できます。HP Reporter と HPOM を統合する方法の詳細は、『HP Reporter インストールおよび特別構成ガイド』を参照してください。

図2 レポートの例



Virtualization Infrastructure SPI には、以下のレポートが用意されています。

表 1 Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
HPVM Configuration	このレポートには、HPVM ホストの構成情報が表示されます。このレポートを使用して、HPVM ホストの構成の詳細を表示して比較できます。	HPVM
HPVM CPU Utilization	このレポートには、HPVM ホストの物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。このレポートを使用して、HPVM ホストの CPU 使用率を表示して比較できます。	HPVM
IBM LPAR Configuration	このレポートには、IBM LPAR の構成情報が表示されます。このレポートを使用して、IBM LPAR の構成の詳細を表示して比較できます。	IBM LPAR

表 1 Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
IBM LPAR CPU Utilization	このレポートには、IBM LPAR の物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。このレポートを使用して、IBM LPAR の CPU 使用率を表示して比較できます。	IBM LPAR
IBM LPAR Memory Utilization	このレポートには、IBM LPAR の物理メモリ使用率の情報が表示されます。このレポートを使用して、IBM LPAR の物理メモリ使用率を表示して比較できます。	IBM LPAR
Infra SPI Active HPOM Message Severity	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーのアクティブな Infrastructure SPI エラーメッセージの重要度が表示されます。	Microsoft Hyper-V
Infra SPI Active HPOM Messages - Top 20	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーの上位 20 のアクティブなエラー メッセージの重要度が表示されます。	Microsoft Hyper-V
Infra SPI History HPOM Message Severity	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認された Infrastructure SPI エラー メッセージの重要度が表示されます。	Microsoft Hyper-V
Infra SPI History HPOM Messages - Top 20	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認されなかった上位 20 の Infrastructure SPI エラー メッセージが表示されます。	Microsoft Hyper-V
Oracle Containers Configuration	このレポートには、Oracle コンテナの構成情報が表示されます。このレポートを使用して、Oracle コンテナの構成の詳細を表示して比較できます。	Oracle Solaris ゾーン
Oracle Containers CPU Utilization	このレポートには、Oracle コンテナの物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。このレポートを使用して、Oracle コンテナの CPU 使用率を表示して比較できます。	Oracle Solaris ゾーン

表 1 Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
VMware Configuration	このレポートには、ホスト ESX/ESXi サーバーの設定情報と、設定されているゲスト仮想コンピューターが表示されます。このレポートを使用して、ホストマシンとゲスト マシンの設定の詳細を表示して比較できます。	VMware ESX/ESXi
VMware CPU Utilization	このレポートには、 vMA の物理 CPU 使用率の詳細と、管理されているホスト ESX/ESXi サーバーが表示されます。また、リソース プールと、ホストに設定されているゲスト仮想コンピューターも表示されます。このレポートを使用して、ホスト コンピューターとゲスト コンピューターの物理 CPU 使用率を表示して比較できます。	VMware ESX/ESXi
VMware Memory Utilization	このレポートには、 vMA の物理メモリ使用率の情報、管理されているホスト ESX/ESXi サーバーが表示されます。このレポートを使用して、 ESX/ESXi ホスト コンピューターの物理メモリ使用率と、設定されているゲスト仮想コンピューターを表示して比較できます。	VMware ESX/ESXi
VMware DataCenter CPU Utilization	このレポートには、 VMware データセンター レベルでの総物理 CPU 使用率の詳細が表示されます。	VMware ESX/ESXi
VMware DataCenter Memory Utilization	このレポートには、 VMware データセンター レベルでの総メモリ使用率の詳細が表示されます。	VMware ESX/ESXi
VMware DataCenter Datastore Utilization	このレポートには、 VMware データセンター レベルでの総データストア使用率の詳細が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI Active HPOM Message Severity	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、 HPOM サーバーのアクティブな Infrastructure SPI エラーメッセージの重要度が表示されます。	VMware ESX/ESXi

表 1 Virtualization Infrastructure SPI のレポート

レポート/レポートのタイトル	目的	プラットフォーム
Infra SPI Active HPOM Messages - Top 20	このレポートには、データ収集時に確認されなかった、HPOM サーバーの上位 20 のアクティブなエラー メッセージの重要度が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI History HPOM Message Severity	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認された Infrastructure SPI エラー メッセージの重要度が表示されます。	VMware ESX/ESXi
Infra SPI History HPOM Messages - Top 20	このレポートには、HPOM サーバーに送信され、確認されなかった上位 20 の Infrastructure SPI エラー メッセージが表示されます。	VMware ESX/ESXi

Virtualization Infrastructure SPI のグラフ

また、グラフを作成して、収集されたメトリック データを分析することもできます。Virtualization Infrastructure SPI で収集したデータからグラフを作成して表示するには、HP Performance Manager を HPOM と併用します。HP Performance Manager は、管理ノードで収集されたほぼリアルタイムのデータを元にグラフを生成します。HP Performance Manager を HPOM 管理サーバーにインストールしている場合、HPOM コンソールからこれらのグラフにアクセスできます。

Virtualization Infrastructure SPI には、設定済みのグラフがいくつか用意されています。これらのグラフは、HPOM コンソール ツリーの [Graphs] フォルダにあります。この [Graphs] フォルダにアクセスできるのは、HPOM 管理サーバーに HP Performance Manager をインストールした場合のみです。以下に、グラフの例を示します。

HPOM for Windows でグラフにアクセスするには、[Graphs] → [インフラストラクチャのパフォーマンス] → [仮想化] を選択します。

HPOM for UNIX (HP-UX、Linux、および Solaris) でグラフにアクセスするには、アクティブなメッセージを選択して [メッセージのプロパティ] ウィンドウを開き、[アクション] をクリックします。[オペレータ起動アクション] 項で、[起動] をクリックします。または、アクティブなメッセージを右クリックして [アクションの起動/停止] を選択し、[オペレータ起動アクションの起動] をクリックします。

図3 グラフの例



Virtualization Infrastructure SPI には、以下のグラフが用意されています。

- 全体の履歴
- グローバル実行キューのベースライン
- 全体の詳細
- 複数のグローバル予測
- CPU の概要
- CPU 使用率の概要
- CPU 使用率のベースライン
- 個々の CPU
- CPU の比較
- CPU ゲージ
- CPU の詳細
- 全体的な CPU の予測
- 季節を考慮した CPU の予測
- ディスクの概要
- ディスクのスループット
- ディスク容量

- ディスク容量 (円グラフ)
- ディスクの詳細
- ディスク使用率
- スワップ領域使用率
- ネットワークの概要
- 個々のネットワーク
- ネットワーク インターフェ이스の詳細
- メモリの概要
- 物理メモリ使用率
- システム構成
- 構成の概要
- トランザクションの正常性
- トランザクションの履歴
- トランザクションの詳細
- トランザクションの応答予測
- ファイルシステムの詳細
- アプリケーション CPU ゲージ
- アプリケーション CPU 予測
- アプリケーションの履歴
- アプリケーションの詳細
- プロセスの詳細
- 仮想化構成
- VM のステータス
- 論理システムによる CPU 割り当て
- 論理システムによる CPU 割り当ての使用率 (%)
- 論理システムによる合計物理 CPU の使用率 (%)
- LPAR フレームごとの物理 CPU 割り当ての使用率 (%)
- LPAR フレーム メモリ使用率
- 論理システムの CPU 詳細
- 論理システムによる CPU の概要
- 論理システムによるメモリ割り当ての使用率 (%)
- 論理システムによるメモリの概要
- CPU 割り当て使用率のベースライン
- ゾーンごとのスワップ使用率 (%)
- ゾーンごとのメモリ使用率 (%)
- VMware ESX/ESXi ホスト メモリ使用率
- VMware ESX/ESXi ホスト メモリ使用率のベースライン

- VMware ESX/ESXi ホスト ディスク使用率
- VMware ESX/ESXi ホスト - ネットワーク MB
- VMware ESX/ESXi - リソース プールにまたがる CPU 使用率
- Solaris コンテナ ホスト CPU 使用率
- MSHyper-V ホスト CPU 使用率
- HPVM ホスト CPU 使用率
- LPAR フレーム レベル CPU 使用率
- LPAR フレーム CPU 使用率
- ゲスト - CPU 割り当て使用率
- VMware データセンター - CPU とメモリの集計使用率
- VMware データセンター - CPU の使用率 (%)
- VMware データセンター - メモリの使用率 (%)
- VMware データセンター - データストアの使用率 (%)

第6章 トラブルシューティング

この章では、**Virtualization Infrastructure SPI** の制限事項と問題の概要、および基本的なトラブルシューティング情報を提供します。

問題	VI 検出を実行できない。HPOM サーバーでサービス マップが表示されず、VM の自動追加がトリガされない。
解決策	ノード上で検出エージェントを再起動します。コマンド プロンプトで次のコマンドを入力します。 ovc -restart agtrep

問題	[ノード] → [Virtualization] → [ESX/ESXi Virtual machines] に表示されないゲストマシンがある。
原因	この問題は、電源オフ状態のゲスト マシンで発生します。
解決策	ゲスト マシンの電源をオンにします。これにより、 Performance Agent はこのマシンのデータを収集してノード グループに追加します。

問題	HPOM for UNIX の管理者用 GUI で変更した高度な監視ポリシーを管理ノードに配布した後、実行できない。
原因	<p>HPOM for UNIX ポリシー エディタの GUI モードで高度な監視ポリシーを編集すると、Perl コード モジュールで構文エラーが発生します。これが原因で、ポリシーを実行できなくなります。以下のようなエラーが表示されます。</p> <pre> An error occurred in the processing of the policy 'SI-LinuxSshdProcessMonitor'. Please check the following errors and take corrective actions. (ポリシー 'SI-LinuxSshdProcessMonitor' の処理 中にエラーが発生しました。以下のエラーを確認して修正措置をとってください。) (OpC30-797) Error during evaluation of threshold level "Processes - Fill Instance list" (しきい値レベル "Processes - Fill Instance list" の評価中 にエラーが発生しました) (OpC30-728) Execution of instance filter script failed. (インスタンス フィルタの実行 に失敗しました。) (OpC30-714) Perl Script execution failed: syntax error at PerlScript line 11, near"1 (Perl スクリプトの実行に失敗しました。Perl スクリプトの 11 行目、"1の近 くに構文エラーがあります) #BEGIN_PROCESSES_LIST #ProcName=/usr/sbin/sshd #Params= #Params= #MonMode=>= #ProcNum=1 #END_PROCESSES_LIST @ProcNames" Missing right curly or square bracket at PerlScript line 17, within string (Perl スクリプトの 17 行目の文字列に右中括弧または右角括弧がありません) syntax error at PerlScript line 17, at EOF. (Perl スクリプトの 17 行目、 EOF に構文エラーがあります。) (OpC30-750) </pre> <p>未編集の高度な監視ポリシー ([Measurement Threshold] タイプ) を HPOM for UNIX から配布して使用できます。</p>
解決策	Measurement Threshold ポリシーの設定を編集するため、HPOM for UNIX の管理者用 GUI の「編集 (Raw モード)」機能を使用してポリシーの内容を変更します。そのためには、ポリシー データ ファイルの構文を理解する必要があります。

問題	英語以外の名前を使用すると、検出手順とデータ収集でエラーが発生する。
原因	<p>Virtualization Infrastructure SPI では、英語以外のマシン名やリソース グループ名がある仮想インフラストラクチャ設定はサポートされていません。</p> <p>Virtualization Infrastructure SPI を英語以外の HP Operations Manager に配布しても問題はありません。ただし、仮想システムに英語以外の名前を使用すると、HP Operations Agent の StoreCollection OvPerl API で認識されないため、エラーが発生します。</p>

問題	VM イベント コレクタ ポリシーがタイムアウトする。
原因	VM イベント コレクタ ポリシーは、デフォルトで 15 分ごとに実行されるようスケジュールされています。(VM イベント コレクタ ポリシーの) イベント収集スクリプトは、イベント収集でタイムアウトした後、デフォルトで最大 10 分間動作できるようにになっています。
解決策	イベント コレクタ ポリシーのスケジュール間隔を変更する場合、タイムアウト間隔をコレクタ ポリシーのスケジュール間隔より短く設定してください。

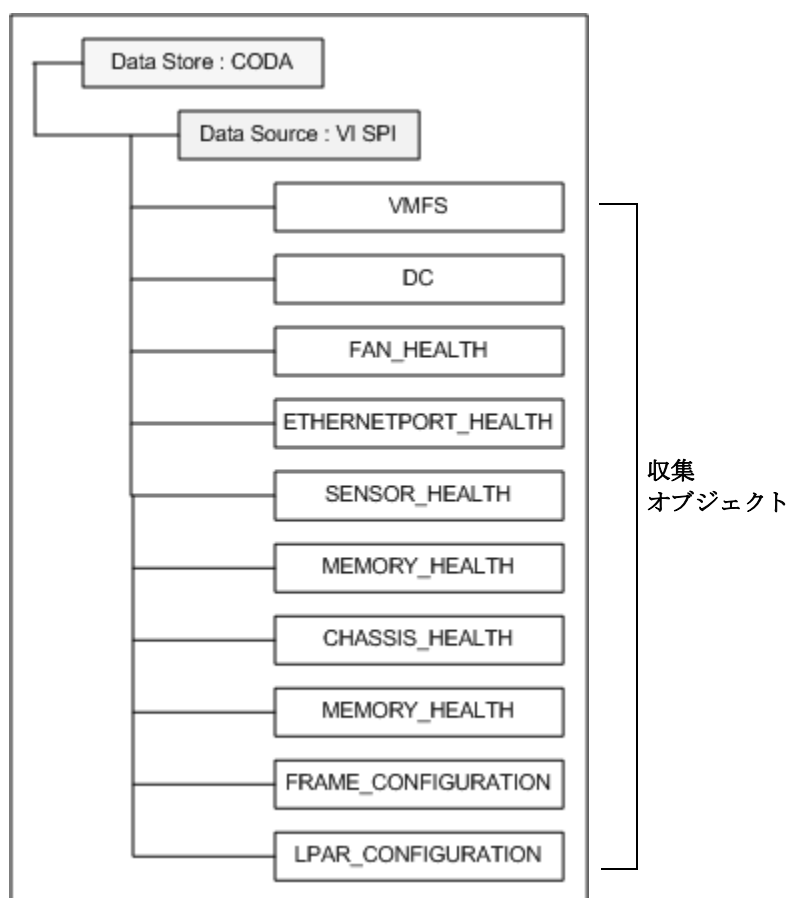
問題	仮想化の検出時に ESX および ESXi サーバーによってホストされているゲストを追加するメッセージが生成されますが、それらのアクションはデフォルトではエラーになります。
原因	この問題は、 HPOM 管理サーバーの XPL 設定 <code>infraspi.AutoAdd_Guests</code> がデフォルトで false に設定されているために起こります。この値を true に設定してアクションを再度実行すると、ゲストを追加できます。
解決策	<p>デフォルトでは、アクションは自動的に実行されません。これは、そのようなアクションの実行時に多数の仮想コンピューターがまとめて追加され、HPOM コンソールのパフォーマンスが低下することを防ぐためです。自動アクションには、都合のよい時間を選択できます。</p> <p>自動追加機能を有効にするには、以下の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • HPOM コンソールで、[Infrastructure Management] → [Settings and Thresholds] → [Agent Settings] をクリックします。 • AUTO_ADDITION_SETTINGS ポリシーをダブルクリックします。ポリシー ウィンドウが開きます。 • <code>AutoAdd_Guests</code> を true に設定します。 • [ポリシーを保存して閉じる] をクリックします。 • ノードに AUTO_ADDITION_SETTINGS ポリシーを配布します。

問題	vMA システムで設定されている再試行レベルによって、Virtualization Infrastructure SPI のスクリプトの実行に長い時間がかかる。
原因	VMware vMA は、追加されたホスト サーバーへの登録を何回も試み、これは成功するまで続きます。そのため、vMA システムで設定されている再試行レベルによって、Virtualization Infrastructure SPI のスクリプトの実行に長い時間がかかります。
解決策	vMA システムで以下のコマンドを実行して、再試行回数を 1 に減らします。 #sysctl -w net.ipv4.tcp_syn_retries=1 net.ipv4.tcp_syn_retries = 1 #service network restart

問題	HP Operations Agent の証明書を vMA にインストールできない。
原因	vMA システムでは、デフォルトで iptable ファイアウォールが実行され、ネットワーク経由の通信がブロックされています。
解決策	次の手順に従って、HP Operations Agent の証明書を vMA にインストールします。 1 HTTPS の TCP ポート (383) を双方向 (受信と送信) で開きます。 2 証明書を取得するための要求を再実行し (ovcert certreq)、サーバーから証明書を取得します。 ポート 383 の詳細とこれを有効にする方法は、『HP Operations Manager ファイアウォール コンセプトおよび設定ガイド』を参照してください。

A Virtualization Infrastructure SPI のメトリック

VI SPI は、Performance Agent と CODA がポリシー用に提供するメトリックを使用します。ただし、VI SPI 2.00 は Infrastructure SPI のネイティブ メトリックもいくつか使用します。このメトリックは、デフォルトのデータ ストアである CODA に収集および記録されます。



Infrastructure SPI メトリックを収集するポリシーを次に示します。

- VI-VMwareVMFSDDataCollector_ja_JP
- VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP
- VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP
- VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP
- VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP
- VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP
- VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP

- VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP
- VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP
- VI-IBMHMCDataCollector_ja_JP

VI-VMwareVMFSDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

仮想マシンのファイル システムに関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VISPI\\VMFS

メトリック名	説明
VMFS_UUID	ファイル システムのユニバーサル固有識別子。
VMFS_HOSTNAME	ファイル システムのホスト名。
VMFS_DEVNAME	VMFS ボリュームのユーザー フレンドリ名。
VMFS_DEVNO	デバイス番号。
VMFS_DIRNAME	ファイル システムのディレクトリ名。
VMFS_TYPE	ファイル システムの種類。
VMFS_MAX_SIZE	ファイル システムの最大サイズ。
VMFS_SPACE_AVAIL	ファイル システム上の使用可能な領域の合計。
VMFS_SPACE_UTIL	ファイル システム上の使用済みの領域の合計。
VMFS_TOTAL_READ_LATENCY	読み取りにかかった時間として、ゲスト オペレーティング システムが認識した時間。カーネル読み取り待ち時間と物理デバイス読み取り待ち時間の合計です。
VMFS_TOTAL_WRITE_LATENCY	書き込みにかかった時間として、ゲスト オペレーティング システムが認識した時間。カーネル書き込み待ち時間と物理デバイス書き込み待ち時間の合計です。
VMFS_DEVICE_READ_LATENCY	物理デバイスからの読み取りが完了するまでの平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_DEVICE_WRITE_LATENCY	物理デバイス (LUN) への書き込みが完了するまでの平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_KERNEL_READ_LATENCY	VMKernel が各 SCSI 読み取りコマンドの処理にかかった平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_KERNEL_WRITE_LATENCY	VMKernel が各 SCSI 書き込みコマンドの処理にかかった平均時間 (ミリ秒)。
VMFS_DISK_BUS_RESETS	収集間隔内でファイル システムが発行した SCSI バス リセット コマンドの数。
VMFS_DISK_COMMANDS_ISSUED	収集間隔内で発行された SCSI コマンドの数。

メトリック名	説明
VMFS_DISK_COMMANDS_ABORTED	収集間隔内で中断された SCSI コマンドの数。
VMFS_DISK_READ_THROUGHPUT	物理ディスクの読み取りスループット。
VMFS_DISK_WRITE_THROUGHPUT	物理ディスクの書き込みスループット。

VI-VMwareDCDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

VMware データセンターに関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\CD

メトリック名	説明
VMWARE_VC_NAME	vCenter の名前。
VMWARE_DC_NAME	データセンターの名前。
VMWARE_DC_CPU_UTIL	データセンター全体の CPU 使用率。
VMWARE_DC_CPU_USED	データセンター全体の CPU 使用量 (MHz)。
VMWARE_DC_MEMORY_UTIL	データセンター全体のメモリ使用率。
VMWARE_DC_MEMORY_USED	データセンター全体のメモリ使用量 (GB)。
VMWARE_DC_MEMORY_TOTAL	データセンター全体のメモリの合計 (GB)。
VMWARE_DC_DATASTORE_UTIL	データセンター全体のデータストア使用率。
VMWARE_DC_DATASTORE_FREE	データセンター全体の空きディスク領域 (GB)。
VMWARE_DC_DATASTORE_TOTAL	データセンター全体のディスク領域の合計 (GB)。

VI-VMwareHostFanHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

ホスト マシンのファンの正常性に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\FAN_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_FAN_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_FAN_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_FAN_ELEMENT_NAME	ファンのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_FAN_HEALTH_STATE	ファンの正常性。
VMWARE_FAN_OPERATIONAL_STATUS	ファンの現在のステータス。

VI-VMwareHostEthernetPortHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

ホスト マシンの Ethernet ポートの正常性に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\ETHERNETPORT_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_ETHERNETPORT_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_ETHERNETPORT_ELEMENT_NAME	Ethernet ポートのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_ETHERNETPORT_DESCRIPTION	Ethernet ポートの説明テキスト。
VMWARE_ETHERNETPORT_NETWORK_ADDRESSES	Ethernet/802.3 MAC アドレス。12 桁の 16 進数 ("010203040506" など) の形式で、2 桁がそれぞれ MAC アドレスの 6 オクテットの 1 つとなります (標準形式のビット順)。
VMWARE_ETHERNETPORT_ENABLED_STATE	Ethernet ポート の状態を有効または無効で示します。
VMWARE_ETHERNETPORT_HEALTH_STATE	Ethernet ポートの現在の正常性。
VMWARE_ETHERNETPORT_OPERATIONAL_STATUS	Ethernet ポートの現在のステータス。

VI-VMwareHostSensorHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

ホスト マシンのセンサーの正常性に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\SENSOR_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_SENSOR_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_SENSOR_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_SENSOR_PART_COMPONENT	-
VMWARE_SENSOR_SENSOR_NAME	センサーを識別するラベル。
VMWARE_SENSOR_SENSOR_TYPE	センサーのタイプ (電圧センサー、温度センサーなど)。

メトリック名	説明
VMWARE_SENSOR_HEALTH_STATE	センサーの現在の正常性。
VMWARE_SENSOR_OPERATIONAL_STATUS	センサーの現在のステータス。
VMWARE_SENSOR_CURRENT_READING	センサーの現在の読み値。

VI-VMwareHostProcessorHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

ホスト マシンのプロセッサの正常性に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\PROCESSOR_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_PROCESSOR_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_PROCESSOR_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_PROCESSOR_ELEMENT_NAME	プロセッサのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_PROCESSOR_FAMILY	プロセッサ ファミリのタイプ。
VMWARE_PROCESSOR_MODEL	プロセッサの一般名 (モデル タイプ)。
VMWARE_PROCESSOR_CURRENT_CLOCK_SPEED	プロセッサの現在の速度 (MHz)。
VMWARE_PROCESSOR_MAX_CLOCK_SPEED	プロセッサの最大速度 (MHz)。
VMWARE_PROCESSOR_EXTERNAL_BUS_CLOCK_SPEED	外部バス インターフェイス (フロントサイド バス) の速度 (MHz)。
VMWARE_PROCESSOR_STEPPING	プロセッサ ファミリ内でのプロセッサのリビジョン レベル。
VMWARE_PROCESSOR_NUM_ENABLED_CORES	プロセッサで有効になっているプロセッサ コアの数。
VMWARE_PROCESSOR_HEALTH_STATE	プロセッサの現在の正常性。
VMWARE_PROCESSOR_OPERATIONAL_STATUS	プロセッサの現在のステータス。

VI-VMwareHostPhysicalMemoryHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

ホスト マシンの物理メモリの正常性に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\MEMORY_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_MEMORY_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_MEMORY_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_MEMORY_ELEMENT_NAME	物理メモリのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_MEMORY_CAPACITY	物理メモリの合計容量 (バイト)
VMWARE_MEMORY_MAX_MEMORY_SPEED	物理メモリの最大速度 (ナノ秒)。
VMWARE_MEMORY_HEALTH_STATE	物理メモリの現在の正常性。
VMWARE_MEMORY_OPERATIONAL_STATUS	物理メモリの現在のステータス。

VI-VMwareHostChassisHealthMonitor_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

ホスト マシンのシャーシの正常性に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\CHASSIS_HEALTH

メトリック名	説明
VMWARE_CHASSIS_HOST_NAME	ホスト マシンの名前。
VMWARE_CHASSIS_HOST_UUID	ホスト マシンのユニバーサル固有識別子。
VMWARE_CHASSIS_ELEMENT_NAME	シャーシのユーザー フレンドリ名。
VMWARE_CHASSIS_DESCRIPTION	シャーシの説明テキスト。
VMWARE_CHASSIS_UUID	シャーシの UUID 。
VMWARE_CHASSIS_MANUFACTURER	シャーシのメーカーの名前。
VMWARE_CHASSIS_MODEL	シャーシの一般名 (モデル タイプ)。
VMWARE_CHASSIS_POWERON_STATUS	シャーシの電源オン ステータス。
VMWARE_CHASSIS_HEALTH_STATE	シャーシの現在の正常性。
VMWARE_CHASSIS_OPERATIONAL_STATUS	シャーシの現在のステータス。

VI-IBMHMCDDataCollector_ja_JP ポリシーによって収集されるメトリック

AIX フレームに関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\FRAME_CONFIGURATION

メトリック名	説明
HMC_NAME	HMC の名前。
FRAME_NAME	フレームの名前。
FRAME_SERIAL_NO	フレームのシリアル番号。
FRAME_MODEL_TYPE	フレームのハードウェア モデル タイプ。
FRAME_IP	フレームの IP アドレス。
FRAME_MEM_CONFIG	フレームで設定可能なメモリの合計。
FRAME_MEM_AVAIL	フレーム上で割り当てられていないメモリの合計。
FRAME_PROC_CONFIG	フレーム上で設定可能なプロセッシング ユニットの数の合計。
FRAME_PROC_AVAIL	フレーム上で割り当てられていないプロセッシング ユニットの数の合計。

LPAR に関連するメトリックを次に示します。

CODA\\VI SPI\\LPAR_CONFIGURATION

メトリック名	説明
HMC_NAME	HMC の名前。
FRAME_NAME	フレームの名前。
FRAME_SERIAL_NO	フレームのシリアル番号。
FRAME_MODEL_TYPE	フレームのハードウェア モデル タイプ。
LPAR_NAME	LPAR の名前。
LPAR_MEM_CONFIG	LPAR に割り当てられているメモリの合計。
LPAR_PROC_CONFIG	LPAR に割り当てられているプロセッシング ユニットの数の合計。

We appreciate your feedback!

If an email client is configured on this system, by default an email window opens when you click on the bookmark “Comments”.

In case you do not have the email client configured, copy the information below to a web mail client, and send this email to **docfeedback@hp.com**

Product name:

Document title:

Version number:

Feedback:

